

# 第7回日ソ知事会議 議 事 録

〔付〕 ソ連知事団滞在日程

昭和50年11月

全 国 知 事 会

写真あり

日ソ知事会議会議場（ダムチェンコ団長あいさつ）（11月26日）

写真あり

前尾衆議院議長との会見（十二月一日）

写真あり

福田副総理との会見（十二月一日）

写真あり

福田自治大臣との会見（十一月二六日）

写真あり

河本通産大臣との会見（十一月二五日）

写真あり

佐藤外務事務次官との会見

（十一月二六日）

写真あり

植村経団連名誉会長（日ソ経済委員会  
代表委員）との会見（十一月二五日）

写真あり

敦賀港視察（11月28日）

写真あり

京都・清水寺にて（11月29日）

## 目 次

第 1	第 7 回日ソ知事会議会議次第	1 頁
第 2	日ソ知事会議出席者名簿	3
第 3	会議概要	6
1	開会宣言	6
2	日ソ両国知事の紹介	6
3	議長選出	6
4	来賓あいさつ	6
(1)	福田自治大臣のあいさつ	6
(2)	羽田野外務政務次官のあいさつ	8
(3)	トロヤノフスキー在日ソ連大使のあいさつ	9
5	日本知事代表歓迎あいさつ	10
	木村全国知事会会長	
6	ソ連知事团团長あいさつ	12
	デムチェンコ・ロシア連邦共和国副首相	
7	議題の採択	13
(1)	日ソ親善関係の発展について	13
(2)	日ソ貿易・経済の協力について	13
8	議 事	13
(1)	日ソ親善関係の発展について	13
ア	ソ連側代表報告	13
	デムチェンコ・ロシア連邦共和国副首相	
イ	日本側代表報告	23
	小畑秋田県知事	

ウ	意見発表	
a	ニボニロフ・ブリヤート自治共和国首相	39
b	中田富山県知事	42
(2)	日ソ貿易・経済の協力について	
ア	ソ連側代表報告	44
	spanダリアン・在日ソ連通商代表	
イ	日本側代表報告	53
	中川福井県知事	
ウ	意見発表	
a	ポドガエフ・ハニロフスク地方執行委員会議長	81
b	板垣山形県知事	84
c	シェフツォフ・サハリン州執行委員会議長	86
9	閉会あいさつ	
(1)	日本知事代表    西    沢    長野県知事	91
(2)	ソ連知事代表    デムチェンコ・ロシア連邦共和国副首相	92
	〔付    録〕	
1.	ソ連知事団滞在日程	96
2.	第7回日ソ知事会議に関する共同声明（和露両文）	109
3.	ソ連知事団メンバーの略歴	117
4.	来日ソ連知事団の地方・州	122

第 1 第 7 回日ソ知事会議  
会 議 次 第

昭和 50 年 11 月 26 日 13 : 30 ~ 16 : 55

都道府県会館別館 211 号室

1 開 会

2 日ソ両国知事紹介

3 議 長 選 出

4 来賓あいさつ

- (1) 自 治 大 臣 福 田 一
- (2) 外務政務次官 羽 田野 忠 文
- (3) 在日ソ連大使 O. A. トロヤノフスキー

5 日本知事代表歓迎あいさつ

全国知事会会長 福島県知事 木 村 守 江

6 ソ連知事団団長あいさつ

ロシア連邦共和国副首相 V. A. デムチェンコ

7 議題の採択

- (1) 日ソ親善関係の発展について
- (2) 日ソ貿易・経済の協力について

8 議 事

- (1) 日ソ親善関係の発展について

ア 報 告



ソ連側報告 ロシア連邦共和国副首相 V. A. デムチェンコ

日本側報告 秋田県知事 小 畑 勇二郎

イ 両国知事意見発表

(2) 日ソ貿易・経済の協力について

ア 報 告

ソ連側報告 在日ソ連通商代表 V. B. スニンダリアン

日本側報告 福井県知事 中 川 平太夫

イ 両国知事意見発表

9 両国知事代表あいさつ

(1) 日本知事代表 全国知事会副会長 長野県知事 西 沢 権一郎

(2) ソ連知事代表 ロシア連邦共和国副首相 V. A. デムチェンコ

10 閉 会

## 第2

## 日ソ知事会議出席者名簿

敬称略

### ソ連側出席者

ロシア連邦共和国副首相（ソ連知事団団長）

V. A. デムチェンコ

バシユキール自治共和国首相

Z. S. アクナザーロフ

ブリヤート自治共和国首相

N. B. ピボバロフ

ハバロフスク地方執行委員会議長（知事）

G. E. ポドガエフ

スタブロポリ地方執行委員会議長（知事）

I. T. タラノフ

ノボンビルスク州執行委員会議長（知事）

V. A. フィラトフ

クイビシェフ州執行委員会議長（知事）

V. F. コンノフ

ヤロスラブリ州執行委員会議長（知事）

V. F. トロポフ

サハリン州執行委員会議長（知事）

A. V. シェフツォフ

ソ日協会理事（通訳）

Y. I. スミルノフ

在日ソ連通商代表（議題報告者）

V. B. スパングリアン

日本側出席者

北海道副知事	中 村 啓 一
秋 田 県 知 事	小 畑 勇 二 郎
岩 手 県 副 知 事	谷 口 昇
山 形 県 知 事	板 垣 清 一 郎
福 島 県 知 事	木 村 守 江 (全 国 知 事 会 会 長)
新 潟 県 副 知 事	関 昭 一
千 葉 県 知 事	川 上 紀 一
長 野 県 知 事	西 沢 権 一 郎 (全 国 知 事 会 副 会 長)
富 山 県 知 事	中 田 幸 吉
石 川 県 知 事	中 西 陽 一 (全 国 知 事 会 副 会 長)
愛 知 県 知 事	仲 谷 義 明
福 井 県 知 事	中 川 平 太 夫
広 島 県 知 事	宮 澤 弘
山 口 県 知 事	橋 本 正 之 (全 国 知 事 会 副 会 長)
香 川 県 知 事	前 川 忠 夫
愛 媛 県 知 事	白 石 春 樹
佐 賀 県 知 事	池 田 直
大 分 県 知 事	立 木 勝
全 国 知 事 会	松 島 五 郎
事 務 総 長	

## 来 賓

自治大臣 福田 一  
外務政務次官 羽田野 忠文  
在日ソ連大使 O. A. トロヤノフスキー

## オブザーバー

在日ソ連大使館参事官 V. V. デニソフ  
同 大使館員 I. V. ワシレンコ  
同 大使館員 (大使通訳) L. L. シェフチュク  
同大使館二等書記官 (広報部長) V. P. ドムラチェフ  
在日ソ連通商代表部 (沿岸貿易担当) I. ロギノフ  
外務省東欧第一課事務官 大江 菊 二  
自治省官房総務課課長補佐 小 島 重 喜  
国際親善都市連盟事務局長 幸 島 礼 吉  
ハバロフスク会事務局長 榎 二郎  
各都道府県東京事務所長  
各新聞・通信・テレビの記者・カメラマン

## 事務局

全国知事会事務総長 松 島 五 郎  
全国知事会事務局次長・各部長ほか

[通 訳]

堀 江 豊

江 沢 国 康 (上智大学ロシア語学科助教授)

小 林 マリ子

## 第3 会 議 概 要

### 1 開会宣言

松島事務総長は、第7回日ソ知事会議の開会を宣言した。

### 2 日ソ両国知事の紹介

日本側出席知事を松島事務総長が、ソ連側出席知事をデムチェンコ団長がそれぞれ紹介した。

### 3 議長選出

松島事務総長は、会議の議長選出について会議にはかったところ、従来の慣例とソ連側の推挙により、日本全国知事会会長の木村福島県知事が就任した。

### 4 来賓あいさつ

#### (1) 福田自治大臣のあいさつ

本日、ここに訪日ソ連知事団団長 V・A・デムチェンコ氏をはじめとする訪日ソ連知事並びに随員の皆様をお迎えして、第7回日ソ知事会議が開催されるに当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

訪日ソ連知事の皆様方遠路ようこそおいで下さいました。心からご歓迎申し上げます。

この日ソ知事会議も、1968年に第1回が開催されてから回を重ねてまいりましたが、その間、日ソ両国の相互理解と友好関係を深めることに大きく貢献してきたのみならず、地方公共団体の当面する重要な問

題について、極めてご熱心に検討を加えておられますことは、私ども地方行政に携わる者として喜びに耐えません。

さて、今回の議題は、「日ソ貿易・経済の協力について」及び「日ソ親善関係の発展について」ということではありますが、この会議の成果は、わが国の国民も大きな期待を寄せているところでもあります。

ご承知のように、1956年に日ソ共同宣言が調印されて以来、日ソ間の経済交流は年を追ってますます活発になっており、貿易の面においても近年着実な伸展を遂げてまいったのであります。特に、日本海沿岸のわが国地方公共団体が大きな関心を寄せておりますソ連極東、シベリアとわが国との沿岸貿易も着実に拡大しており、さらに、昨年12月11日に署名された「ヤクート天然ガスの探鉱に関する基本契約」及び今年1月28日に署名された「サハリン大陸棚の石油天然ガスの探鉱に関する基本契約」が本格的に実施された暁には、日ソ間の貿易は飛躍的に発展するものと期待されております。

また、日ソ親善関係につきましては、従来のモスクワ・東京間の定期航空路の増便に加えて、日ソ両国国民が等しく待ち望んだハバロフスク・新潟間の定期航空路の開設等により一段と親善交流が深められていることは、誠に喜ばしいことでもあります。今後とも、各界、各層の積極的な交流を通じて、日ソ両国の親善関係がさらに発展することを希求しております。

この会議において、日ソ両国の知事各位が、英知を結集して、意見の交換、討論をなされることは、時宜を得たものであり、また、さらに、相互の深い理解と協力の途を開くものと確信するものであります。

皆様は、訪日されると直ちに北海道及び東京都の各地を視察され、ま

た、この会議終了後、福井県及び秋田県の各地を視察されるご予定と承っております。日本の現実の姿を十分に視察されて、わが国及びわが国民に対する理解を一層深められるとともに、初冬の日本の旅を心ゆくまでお楽しみ下さることを願ってやみません。

本日、この会議が共通の問題意識の下に、所期の成果を挙げられますことを心から期待いたしまして、私のあいさつといたします。

昭和 50 年 11 月 26 日

自治大臣 福田 一

## (2) 羽田野外務政務次官のあいさつ

本日ここに第 7 回日ソ知事会議が開催されるに当たり、一言ごあいさつを申し述べる機会を得ましたことは、私の欣快とするところであります。

近年、日ソ間において政治、経済、文化等幅広い分野における交流が活発化しておりますことは、喜びに堪えません。特に今回第 7 回目を迎えた日ソ知事会議は、日ソ両国の交流の拡大と緊密化の面で大きな役割を演じてきており、高く評価されるところであります。

わが国は、世界の平和を祈念する立場から、すべての国との間に友好関係の増進をはかることをもって対外政策の基本とし、そのための努力を一貫して払っております。とりわけわが国にとり重要な隣国であるソ連邦との間に真の相互信頼に基づく善隣友好関係を確立することは、ひとり日ソ両国民の共通の利益に適うばかりでなく、極東の平和に寄与するものと確信いたします。このようを意味から、日ソ双方は、第二次大戦の時から残されている未解決の問題を解決し、平和条約を締結するた

め一層の努力をいたすべきであると考えます。

私は、今次知事会議が、隔意なき意見の交換を通じ、日ソ間の相互理解の一層の増進と友好関係の発展に寄与されるよう、心から期待するものであります。

昭和 50 年 11 月 26 日

外務政務次官 羽田野 忠 文

### **(3) O・A・トロヤノフスキー在日ソ連大使のあいさつ**

第 7 回ソ連地方・州ソビエト執行委員会議長と日本知事との会議に出席された皆様の前であいさつさせていただくことは私にとって大きな喜びであります。

日ソ両国の地方自治体の指導者の会合は、すでに過去 7 年間にわたってソ連と日本とで交互に行われてまいりました。この会合は、ソ日関係の中でひとつのすぐれた伝統になったと思います。

今回の会議は、ソ連側が代表する地域の範囲がひろがったことを示しています。これまでの会議では、東シベリア・極東の各地方・州のソビエト執行委員会議長が参加していたのに対して、今回の会議ではニルガ河の地域、北コーカサス、ウラル周辺の地域の代表が出席しています。

ソ日知事会議の少なからぬ経験が積み重ねられてきている今日、両国間の交流の数多くの方法を補うような効率的な両国間の接触の方法が発見されたということができると思います。

地方自治体間の交流の促進は、お互いをもっとよく知り、理解し合い、そしてアジアを含む全世界の平和のために長期的、互恵の協力を築くというわれわれ両国人民の熱意を反映するものと言えるであらう。



この数年間、国際舞台において、世界の政治的気候がいちじるしく好転しました。冷戦にかわって緊張緩和がやって参りました。ゆるぎない、そして恒久的な平和のための条件をつくるために緊張緩和の過程を強固にし、それを引き返すことのできないものにするには、すべての国々の利益に合致するものであると思います。これこそソ連の対外政策が目的としている所であります。

緊張緩和の過程の深まりや、社会体制の違った諸国との平和共存と平等互惠の協力の確立は、ソ日関係の促進のためにさらに有利な条件を与えていると思います。

この数年間、アジアの平和と安全の重要な要因となっているわれわれ両国の間関係には、少なからぬ前進が達成されましたが、たとえば貿易の分野ではこの前進がきわめて大きいものであったと言えましょう。ソ連側としては、ソ日関係の強化を継続することを支持します。

今回のソ日知事会議のご成功を祈ると同時に、それがわれわれ両国間の善隣関係の強化、ソ連と日本との両国人民の親善や相互理解の深まりに貢献するという確信を述べまして私のごあいさつといたします。

ありがとうございました。

## 5 日本知事代表歓迎あいさつ

全国知事会会長

福島県知事 木村守江

日ソ知事会議の開会にあたりまして、日本の全国都道府県知事を代表いたし、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、福田自治大臣、羽田野外務政務次官、トロヤノフスキー在日ソ

連大使のご臨席のもと、ソ連邦知事団の知事各位と日本知事のご参加を得て、ここに日ソ知事会議を開催することができましたことは、まことにご同慶の至りに存ずる次第でございます。

私はソ連邦知事各位が極めてご多忙の折にもかかわらず、この度わが国を訪問せられましたことに対し、深く謝意を表するとともに、心からご歓迎を申し上げます。

さて、日ソ両国知事の相互訪問は、1968年（昭和43年）から継続して行われておりますが、その間、多くの日ソ両国の共通する事項を採り上げ、真剣に討議せられまして、両国民の利益と日ソ両国の友好的関係の発展に寄与して参ったのであります。特に昨年8月には、日本知事代表が貴国を訪問いたしまして、まことに行き届いた歓待に預り、心から御礼を申し上げます。

さて、近年特に、科学技術の進歩と経済の発展等に伴い、地方行政はいよいよ複雑多岐になって参りました。このような時期に日ソ両国の知事が一堂に会して、これら重要問題について討議いたしますことは、まことに意義深いものがあると存じます。

今回の日ソ知事会議におきましては、日ソ共同提案による「日ソ親善関係の発展について」および「日ソ貿易・経済の協力について」の2議題について活発な討議が行われることと存じますが、これらは、いずれも両国にとって極めて重要な問題でありますので、十分論議を尽され、多大の成果が得られますよう願います次第でございます。

最後に、私は、この日ソ知事相互訪問計画に対して、両国民がその成果に多大の期待を寄せていることを思い、本日の会議と地方視察が、日ソ両国民の理解と親善を一層深め、両国の発展に貢献するものと信ずるもので

あります。本日の会議がご列席の各位のご協力により、所期の成果を挙げ得られますよう、切に希望いたしまして、開会の挨拶といたします。

ありがとうございました。

## 6 ソ連知事団団長あいさつ

ロシア連邦共和国副首相

V・A・デムチェンコ

尊敬する日本全国知事会会長の木村さん！

尊敬する日本の知事の皆様！

尊敬する同志たちのみなさん！

私は、ロシア社会主義連邦共和国の代表として、第7回日ソ知事会議への出席者の各位に対し、共和国のソロメンツェフ首相からの心からの祝意をお伝えいたしたいと思います。

私は、ソ連知事団一同に代り、私どもが日本の全国知事会からの親切なご招待を受けて、このたび日本を訪問することになったことについて、心から深く感謝いたしたいと思います。

また、ただいま、日本全国知事会会長の木村先生と福田自治大臣と外務省の羽田野次官から暖かいごあいさつの言葉をいただきましたことに対し、私は衷心からお礼を申し上げます。

とくに私が本日強調いたしたいのは、今度の会議は大へん広い範囲を代表するようになっていることと、討議される内容についても大へん重要視されつつあることでもあります。

ご承知のように、人々が度々会ってそれぞれ互いの意見、思想を交換する機会をもつことは、相互理解を深めるのに役立つのであります。とくに

このことは隣人同志について言えることなのでありますが、私たち両国は隣国同志なのであります。

このたびの私たちの会議でも、活発な意見の交換が行われて、両国民間の相互理解と友好の強化に貢献することを期待しております。

ご出席者各位のご尽力により、こんどの会議も、構成的にも内容的にも充実したものとなり、大きな成果があがることを確信いたしております。

これを以て私のごあいさつとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

## 7 議題の採択

木村会議議長より、会議の議題についてはかった結果、日ソ間で予め合意に達している次の2議題を採択した。

- (1) 日ソ親善関係の発展について
- (2) 日ソ貿易・経済の協力について

## 8 議事

### (1) 日ソ親善関係の発展について

#### ア ソ連側代表報告

ソ連邦の地方・州と日本の都道府県との  
友好関係の発展について

ロシア連邦共和国副首相

V・A・デムチェンコ

尊敬する議長さん！

尊敬する県知事の皆さん！

尊敬する皆さん、同志の皆さん。

私たちは、今日第7回定例会議のため集りました。この会議はよき伝統となっております。それは、ソ日関係の最も現実的な問題を定期的に討議できるようにし、私たち国民の生活をよりよく知り相互理解を深めるのを助けております。

つい最近、ソビエトは、ソ連共産党第25回大会を立派にむかえ、第9次5か年計画を成功裡に遂行することに向けられた新しい政治的高揚と労働の積極性という情勢の中で、その建国58周年を祝いました。

私たちの国民経済計画は、安定した高いテンポで発展しています。

現在わが国での石油の採掘量、鋳鉄、鋼鉄、セメント、鉱物肥料、トラクター、綿花、羊毛の生産量は世界のどの国よりも多いのです。この5か年間に約2,000の大工業企業が操業を開始しました。この5か年に約2万の新しい型の機械、設備、器具、計器、自動化手段の見本を開発及び創設しすした。今年は約3,500点の新工業製品が開発されます。

第9次5か年計画の最終年は宇宙開発の優れた成果によって記念される年となりすした。「ソユーズ」と「アポロ」の宇宙共同飛行と2人の宇宙飛行士をのせた「サリュート4号」の飛行はすべての国から高い評価を受けました。宇宙の歴史上初めてソビエトの人工衛星が金星の軌道に打ち上げられ、その天体の表面のユニークな映像を受け取りました。

年とともに国民の物質的及び文化的な生活水準は向上しています。今回の5か年計画中に、賃金引上げと税金の免除あるいは引下げのおか

げで 7,500 万人以上のソビエトの人々の実質収入が高まりました。

4,000 万以上の人々は、現在では社会消費基金から、増額された年金、奨学金、扶助金その他を受けとっています。

住宅建設の高いテンポとその規模の大きさは、私たちの現代の生活の輝かしい特徴であります。今年だけでも、約 1,100 万人の市民が新しい住宅を受け取ったか、または住宅条件が改善されました。

毎年、高等あるいは中等専門教育をうけた約 200 万人の専門家が送り出されています。

ソ連共産党第 24 回大会で採択された平和綱領の一貫した実現とすべての平和勢力の闘いの結果、国際情勢は一層の緊張緩和、社会制度の異なる国々との建設的相互利益に基づく協力の道へと発展しています。

周知のように、1956 年にソ連邦と日本との国交回復共同宣言に調印の後、双方の努力によって一定の肯定的な成果が達成されました。

政治関係の分野を例にとってみましょう。両国の国家活動家の訪問が実現されています。1973 年にモスクワで行われたソビエトの指導者と日本の首相との会合と懇談は大きな意義がありました。

最近数年間に、各分野における諸関係を調整するだけでなく、その一層の発展を促進することを目的とした条約や協定の一定の基盤をつくることができました。それらには貿易・経済関係の基本原則を定める貿易協定、太平洋北西水域における漁業協定、直通航空路と航海協定、領事協約、科学・技術協力協定その他をあげることができます。

実務的接触のよい見本は国会関係の交流です。ソ連邦最高会議の代表団の訪日、そして日本の国会代表団の訪ソが行われました。

現在、ソ連邦最高会議代表団が日本に滞在しています。

また、経済協力も非常に成功裡に発展しています。1974年の貿易総額は25億ドルでしたが、今年はもっと多くなるでしょう。貿易・経済関係発展に積極的な役割を果たしているのは、1965年に設置された経済協力に関するソ日及び日ソ委員会です。これらの委員会の活動は、極東の森林資源開発のための設備、機械、施設の日本からソビエトへの供給に関する一般協定、ウランゲル湾の新港建設協定、チップ材、闊葉樹材その他のソ連から日本への供給に関する協定などの調印を促進しました。

1974年には、大規模な経済協力の一連のプロジェクトを実現するため10億ドルを上回る日本からソビエトへのリンクローンの議定書が調印されました。南ヤクートのコークス炭の開発、極東とシリアの森林資源開発、サハリン島大陸棚の石油とガスの探査協力に関する一般協定はすでに実現しています。これらの協定は相互の利益となり、その実現はソビエトと日本の両国民に同じ程度の利益を与えます。

しかもその利益は経済的性格だけではなく、政治的性格をももっています。というのは、それけかなりの年月の先を見越した協力の調整のことであり、よき善隣関係が維持されるという条件でのみ可能だからです。

地方自治体の交流も重要な意義をおびてきています。地方、州、市の勤労者代議員ソビエトと日本の府県及び市との接触もたえず拡大しています。

ソビエトと日本で交互に開催されるこの会議では、貿易・経済、文化関係の発展、善隣関係の強化といった広範な問題が討議されます。

ソビエトの地方（州）執行委員会議長は日本の県知事及び県民の皆さんとの直接的接触、代表団、写真展、映画、ソ日両国民の生活に関する情報資料の交換の拡大をこれからもつづけていくつもりです。

私たちはソビエトと日本の都市間にできた友好関係に重要な意義を見ています。常時その関係を発展させているハバロフスク・新潟、イルクーツク・金沢、ナホトカ・舞鶴、レニングラード・大阪、ボルゴグラード・広島、ウランウデ・留萌その他の都市をとくに指摘しておきます。

私たちは、今年の 9 月にブラーック市で開かれた市ソビエト議長と日本西部沿岸市長との第 5 回会議（第 5 回日ソ沿岸市長会議）の成功を満足の意をもって指摘できます。

国際生活、平和発展の傾向における現代的段階では、国際発展それ自身の性格に条件づけられる社会関係がますます重要となってきました。

社会関係においてとくに貴重なのは、それが人と人との直接的接触の確立を促すような状況をつくりだすことだと思います。

秋田及び福井の県知事、一連の市長及び多くの日本の著名な社会活動家がソビエトで歓迎されました。

毎年、日本の青年、専門家の「友好キャラバン」の大グループが私たちの所を訪れていますが、私たちはそれをソビエトに対する日本の関心の高まりの証拠であると見ています。

同時に日本へも多くのソビエトの国家及び社会団体の代表が訪れています。

科学・技術と文化関係分野の発展でも著しい成果が達成されています。日本の科学者である和達、赤堀、茅、朝永そして湯川博士は、ソ



連邦科学アカデミーの外国人名誉会員です。東海大学総長であり日本  
対外文化協会会長である松前博士と榊原博士は、モスクワ国立総合大学  
の名誉博士号を授与されました。

ソビエトでは芥川、漱石、川端その他の作家の日本文学や民俗学の  
多くの古典や現代作品が翻訳されています。

私たちはプーシキン、レルモントフ、トルストイ、ドストエフスキ  
ー、ゴーゴリ、チャーホフ、ゴーリキー、ショーロホフその他の現代  
ソビエト作家の作品が翻訳され、親しまれていることを知っています。

日本の観客は、ソビエトの指導的芸能集団や音楽家と接する機会が  
ありました。ボリショイ劇場、レニングラード・オペラ劇場、ソ連国  
立交響楽団、レニングラード・フィルハーモニー交響楽団、モイセーエ  
フ民族舞踊団などの日本公演は大成功を収めました。

ソビエトの観客は日本で有名な「宝塚」の皆さんを大歓迎しまし  
たし、私たちはソ日合作映画「小さな逃亡者」、「モスクワわが愛」そし  
て最近封切された黒沢明監督の「ゲルス・ウザーラ」をみました。

文化と芸術の分野の協力はその場で足ぶみはしておらず、それは毎  
年拡大され、その方式はますます多面的になってきています。

私たち両国間の経済、文化、科学その他の分野の成功的発展の上で  
大きな役割を果たしているのは、大衆団体でその傘下に 50 万以上の  
会員をもつ「ソ日協会」です。この協会は数百の団体会員を統合して  
おり、極東のナホトカ市から南の保養地ソチにいたる国内の 15 の都  
市にその支部をもっています。

ソ日協会の主な課題は、ソ日両国民の歴史、文化、文学、経済、生  
活及び労働の紹介を通して、両国民の善隣関係、相互理解、信頼、友

好及び協力の一層の発展強化を促してゆくことです。

20以上のソビエトの省、部局、団体が参加している「ソ連対外友好文化連絡団体連合会」と「ソ日協会」が日本の諸団体と結ぶ文化及び科学協定の実現は大きな意義をもっています。この協定のなかには、ソビエト人が日本の人々の生活を知り、日本の人々がソビエトの現実を知るもろもろの行事も入っています。

また、大学、出版社、新聞社、ラジオ・テレビ、日ソ貿易協会などと連絡をたもっています。

この2年間に、ソ連邦において、アジアの平和と安全の強化のうえでのソ日協力問題について、海洋生物学について、学校教育発展問題について、大都市発展問題について、エレクトロニクスについて、第9回ソ日経済学者シンポジウム、「太平洋の生物資源とその合理的利用」というテーマの第4回ソ日シンポジウムといったソ日共同シンポジウムが開かれました。

ソビエトの人々に日本文化を紹介する目的で、「日本造形美術展」、「日本のポスターとカレンダー展」、「文化と科学に関する日本書籍展」その他の展覧会を開きました。

その期間に日本では、「ソビエト社会主義シベリア展」、「ソ連邦における宇宙開発展」、「ロシアとソビエト絵画展」が催されました。

「三保ランド」文化センターではソビエト展を定期的で開催しており、昨年9月には経済、科学、技術、文化などいろいろな分野でのわが国の達成を紹介するソ連の常設展覧会場が開館しました。

北海道の道庁所在地札幌市では、1か月前に日ソ友好会館の起工式が行われました。私たちはこの友好の歩みを高く評価し、われわれ両国

及び両国民間の善隣関係拡大のいま一つの証拠とみています。

私たちは、ソビエトとの友好を目的とする広範な運動に参加している日本の各種団体の方々に感謝の意を表明し、日本におけるソビエトのすべての友人たちに心からの挨拶を送り、ソ連邦と日本の両国民間の善隣友好関係の発展、全般的平和の強化という気高いみなさんの活動の成功を希望してやみません。

ソ連共産党中央委員会書記長レオニード・イリイチ・ブレジネフ同志は、選挙人を前にして次のように述べました。「ソ日関係も好転している。……両国にとって利益となる大規模な協定がすでに結ばれているし、そして将来への悪くない見通しもある。これと平行して、政治の分野におけるソ日関係の発展も期待してよいであろう。われわれは、ソ日関係の建設的発展は両国の要求に応えるものと確信している。それはまた、アジア大陸における平和と安全にも応えるものである」

この言葉のなかには、他の国の国民と、平和と友好のうちに生活しよう、色々な分野の実務的な協力を発展強化させていこうというすべてのソビエト人の関心と努力が反映しています。

諸国民間の平和と友好の強化、諸国民の広範な協力の発展の歴史的貢献は、ヨーロッパにおける安全と協力会議の成果でした。

この会議の意義は非常に高く評価すべきであり、その結果は、ヨーロッパの枠を越えて有益なものとなりえます。

もし 35 か国の国々がヨーロッパにおいて歴史的成果を勝ち得たとしたなら、当然このような成果は、アジアあるいは世界の他の地域でも達し得ることです。

私たちは、アジア諸国の大国のひとつである日本も、アジアの平和

と安全の強化の事業でできるかぎりの貢献をするものと期待していません。

ソ連と日本の両国民間の友好関係は、アジアと全世界の平和のために、われわれ両国のために、今後ともさらに成功裡に発展強化していくという期待をもう一度ここで表明して、発言をおわらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



## イ 日本側代表報告

### 日ソ親善関係の発展について

秋 田 県 知 事 小 畑 勇 二 郎

近年、ソ連邦と日本との間の親善交流がますますさかんとなり、各界・各層の友好・文化交流の幅と密度が大きくなってきていることは、まことに喜ばしい次第であります。

ソ連邦を主として訪問した日本人の数をとってみますと、1974年には16,000人以上が訪ソしており、これは10年前の1964年における約2,400人と比べ7倍近い数字であります。

1973年6月から、従来のモスクワ・東京間の定期航空路の増便に加えて、待望のハバロフスク・新潟間の定期航空路（週2往復）が開設されましたことや、また、1973年4月から、公共放送であるNHKの全国ネットワークで従来のラジオ講座に加えてテレビによるロシア語講座が開始されたことなどは、ここ数年における日ソ親善関係の深まりを裏書きする一例であります。

私は、ここでは、地方自治体とくに府県の段階における親善友好運動に重点をおいて述べたいと存じます。

日ソ両国民の親善友好関係の発展に、最も地域住民に密接な形で貢献しているのは、州と県、市と市といった、地方自治体同志の交流であると存じます。

とくに日本海をはさんで向い合っている日本の北海道、東北・

日本海沿岸の各府県とソ連の極東・シベリアの各地方・州・自治共和国との関係はますます発展し、友好・文化交流がすすんでおります。たとえば北海道とサハリン州、兵庫県とハバロフスク地方、石川県とイルクーツク州などが、さまざまの形の交流を通じて親密な友好関係を積み重ねております。これらの自治体は知事の指導のもと、ひんばんな各種代表団の相互派遣や、スポーツ競技会の開催や、図書・資料の交換など、多彩な親善友好事業をくりひろげています。

日本海沿岸のいくつかの県は、市民のためのロシア語講座、ソビエト映画会、ソビエト写真展などを行う団体に補助金を支出するなど積極的な姿勢を示しております。

また北海道は、ソ連側との協定に基づき、1972年から毎年「北海道・ソ連極東親善スポーツ大会」を実施しておりますが、本年は8月に第4回夏季大会がハバロフスクで行われ、50名以上の北海道のスポーツマンたちが参加しました。

北海道当局はこの事業に対し相当額の予算支出等全面的に協力しております。

近年各県の後援によりさかんに行われるようになった地方青年の親善交流もまた注目すべきできごとであります。

1971年から、中川福井県知事の提唱により組織された「訪

ソ青年の船」が、十数県の地方青年代表の参加を得て毎年実施されておりますが、第5回目にあたる本年は、7～8月にかけて2隻の船が敦賀港から出港し、これに県の幹部職員を団長として11県の青年男女約370人が参加しました。そして約2週間にわたってソ連国内各地で交流・交歓をくりひろげ、ソ連に対する理解を深めて参りました。

また、秋田県でも、1972年から「秋田県青年海外研修団」を組織して毎年ソ連へ派遣しており、本年は第4回事業として、8月に、私が団長となって約270名の勤労青年が秋田港から出発し、約2週間ソ連各地を訪問いたし、ソビエト青年たちと交歓・討論を重ねるとともに、ピオニール、大学キャンプ場、コルホーズ、保育園、病院等の見学を行い、大きな成果をあげて帰国しました。昨年はソ連の青年代表15名を秋田に招待して相互の友好を深めております。この秋田の「訪ソ青年の船」により、年ごとに日ソ青年間の友好親善は深まりつつあるので、今後も継続する方針であります。

日ソ両国民の親善に大きく寄与しているものとして、姉妹都市運動に言及しないわけには参りません。

日ソ間における姉妹都市関係の端緒を築いたのは1961年、舞鶴（京都府）とナホトカでした。その後新潟とハバロフスク、



横浜とオデッサなど有力な都市の間でつぎつぎと縁組が行われ、昨年中新たに神戸とリニ、酒田とジェレズノゴルスクが姉妹提携に加わり、現在では日本の 15 の都市がソ連のそれぞれの都市との間に姉妹関係を結んでおります。そして実にさまさまの親善友好事業を行っております。

また、1970 年に組織された「日ソ沿岸市長会議」は、新潟など日本の 18 都市とソ連邦のハバロフスク市など 10 都市が加盟して定期的に日ソ両国で交互に会議を開いておりますが、本年は 9 月にニラックで第 5 回会議を開催し、日本からは新潟市長等 7 市代表、ソ連からハバロフスク市長はじめ 9 市代表が集まり、①市政への住民参加、②近代都市建設の基本原則、③文化・経済関係の発展、を議題として熱心な討議をくりひろげました。この事業は、わが国の日本海沿岸諸都市とソ連の極東・シベリアの各都市との間の人的・文化的交流の発展と友好関係の緊密化のために実質的な役割を果たしていると思います。

1968 年にはじまり本年で第 7 回を迎えたわれわれの「日ソ知事会議」も、ほとんど毎回、貿易・経済問題とならんで日ソ親善友好や文化交流の促進を議題として討議いたしてきており、また会議前後の各地方の視察旅行において知事の代表団は各界の指導者や市民のみなさんと親しく接触して両国間の友好・相互理解

の増進に貢献いたしていることは、申すまでもありません。各地方の新聞、テレビも、日ソの州・県の首長の国際的活動に注目を寄せ、その交流についてはつねに詳しく報道して、広く一般住民に知らせております。これまでの6回にわたる日ソ知事会議を通じて、延人数にして日本の知事・副知事が25名訪ソし、またソ連の地方・州執行委員会議長・副議長が20名来日されました。

われわれは、日本とソ連、日本の府県・市とソ連の地方・州・市との間で、首長を先頭として経済、文化、スポーツ、観光などさまざまな目的のため、あらゆる皆層、職業、年齢の人々による交流が今後も着実に発展し、そのことを通じて両国民間の相互理解と友好善隣関係が真に堅固な基礎の上のうちたてられ、両国民の長期的利益と極東ひいては全世界の恒久平和が実現されることを心から期待するものであります。



〔 参 考 資 料 〕

- 1 日 ソ 知 事 会 議 開 催 一 覧 表
- 2 日 ソ 人 事 交 流 の 数 的 推 移
- 3 日 ソ 姉 妹 都 市 の 提 携 状 況
- 4 ソ 連 船 入 港 状 況



日ソ知事会議開催一覧表

区分	期日及び場所	議 題	訪 問 先 (州県名)	知事団メンバー (州県名) ◎印団長
第1回	43. 12. 25 東 京	日ソ沿岸貿易の促進 ソ連の地方、州と日本の府県との友好親善関係 の発展	東 京 ①新潟、山形、宮城、岩手、青森、秋田 ②長野、富山、福井、石川、島根、兵庫	◎ ハバロフスク地方、沿海地方、チタ州、イルクーツク州(副)、 サハリン州(副)
第2回	44. 7. 25 モスクワ	日ソ両国の文化友好関係の現状と将来性 日ソ沿岸貿易の現状と将来性	沿海地方、ハバロフスク地方、イルクーツク州、 レニン グラード州、モスクワ州、クラスノダール地方(ソ チ)	◎ 愛知、山形、山梨、石川、福井、兵庫、香川、 青森(副)、
第3回	45. 5. 30 東 京	日ソ沿岸貿易の振興について 日ソ文化交流について	東京、京都、福井、大阪、岐阜、神奈川	◎ ハバロフスク地方、ブリヤート自治共和国、沿海地方 イルクーツク州、サハリン州、チタ州
第4回	46. 7. 30 モスクワ	ソ日関係の一層の発展と協力について、ソ連極東及び 東シベリアの開発並びに対日沿岸貿易の発展につ いて、 日ソ貿易全般の促進について、沿岸貿易の促進につ いて、公害対策について	沿海地方、ハバロフスク地方、イルクーツク州、モ スクワ州、レニングラード州、グルジア共和国	◎ 岩手、秋田、福井、兵庫、鳥取、岡山、岐阜(副)
第5回	47. 11. 14 東 京	経済、文化及び科学・技術における協力の一層の 拡大について、環境汚染防止対策について	東京、長野、富山、石川、大阪、三重、神奈川	◎ 沿海地方、ハバロフスク地方、ブリヤート自治共和国、ア ム ール州、チタ州、ノボシビルスク州、イルクーツク州、チュ メニ州、 サハリン州
第6回	49. 8. 22 モスクワ	経済文化の交流について 自然環境保全について	ハバロフスク地方、イルクーツク州、ノボシビル スク州 モスクワ州、レニングラード州	◎ 長野、山形、石川、三重、山口、徳島、北海道(副) 富山(副)、愛媛(副)、長崎(副)、
第7回	50. 11. 26 東 京	日ソ親善関係の発展について 日ソ間の貿易・経済の協力について	東京、北海道、福井、秋田	◎ ロシア連邦共和国(副首相)、バシユキール自治共和国、 ブリヤート自治共和国、ハバロフスク地方、スタプロボ リ地方、ノニシビルスク州、クイニシエフ州、ヤロスラ ブリ州、サハリン州

## 2. 日ソ人事交流の数的推移

年	重要事件	送り出し 日本→ソ連 (人)	受け入れ ソ連→日本 (人)
1956年(昭31)	10月 鳩山首相訪ソ、日ソ共同宣言	77	71
1957年(昭32)	12月 日ソ通商条約調印	408	407
1958年(昭33)	6月 日ソ定期航路協定	305	561
1959年(昭34)		229	444
1960年(昭35)	8月 モスクワ日本見本市	1,204	918
1961年(昭36)	5月 横浜・ナホトカ定期航路開始	1,317	959
	6月 舞鶴・ナホトカ姉妹都市調印		
	8月 東京ソ連見本市		
1962年(昭37)		1,516	779
1963年(昭38)	4月 業務渡航自由化、沿岸貿易協定調印	1,851	913
1964年(昭39)	4月 観光渡航自由化	2,440	1,962
	10月 東京オリンピック		
1965年(昭40)	7月 第2回日本見本市	5,368	1,673
1966年(昭41)	3月 第1回日ソ経済合同委員会(東京)	7,449	2,723
	7月 日ソ領事条約調印		
	10月 第2回ソ連見本市(大阪)		
1967年(昭42)	4月 日ソ共同運航機開始。ナホトカ (7月)札幌(10月)総領事館開設	10,415	2,915
1968年(昭43)	12月 第1回日ソ知事会議	11,786	2,989
1969年(昭44)		13,370	3,011
1970年(昭45)	3月 日航自主運航開始	20,782	4,639
	3月 大阪万国博		
1971年(昭46)	レニングラード(5月)・大阪(4月)総領 事館開設	24,774	2,764
1972年(昭47)	2月 札幌オリンピック	25,557	4,953
1973年(昭48)	6月 新潟・ハバロフスク定期航路開始	22,417	3,804
	10月 田中首相訪ソ		
	12月 シベリア博		
1974年(昭49)		16,214	4,722
1975年(昭50)	7月 沖縄海洋博		
注		外務省旅券 課調べ(旅 券発行数)	法務省入国管 理局調べ(実 際入国者数)

3. 日ソ姉妹都市の提携状況

(1) 正式に結んでいるもの

	都 市 名	提携都市名	提携年月日
1	舞 鶴 (京都府)	ナ ホ ト カ	1961 6. 21
2	新 潟	ハ バ ロ フ ス ク	1965 4. 23
3	横 浜	オ デ ッ サ	1965 7. 11
4	小 樽	ナ ホ ト カ	1966 9. 11
5	金 沢	イ ル ク ー ツ ク	1967 3. 20
6	広 島	ボ ル ゴ グ ラ ー ド	1968 5. 18
7	旭 川	ユ ー ジ ノ サ ハ リ ン ス ク	1968 8. 6
8	七 尾 (石川県)	ブ ラ ー ツ ク	1970 12. 11
9	京 都	キ エ フ	1971 9. 7
10	留 萌 (北海道)	ウ ラ ン ウ デ	1972 7 5
11	北 見 (北海道)	ポ ロ ナ イ ス ク	1972 8. 13
12	稚 内	ネ ベ リ ス ク	1972 9. 8
13	仙 台	ミ ン ス ク	1973 4. 6
14	神 戸	リ ガ	1974 6. 18
15	酒 田 (山形県)	ジエレズノゴルスク	1974 8. 26

(2) 目下交渉中のもの及び友好関係にあるもの

神 戸 (石川県) — ハバロフスク  
 根上町 (石川県) — シェレホフ  
 能都町 (石川県) — ジェレズノゴルスク  
 敦 賀 — ウランゲル  
 東 京 — モスクワ  
 大 阪 — レニングラード

(3) また、ソ連の極東・東シベリアの各地方・州と日本の北海道、東北、日本海沿岸各県との関係も発展している。

(国際親善都市連盟調べ)



4. ソ連船入港状況

昭和 49 年 1 月から 12 月まで 1 年間

(海上保安庁調べ)

順位	港 名	ソ連船 (A)	外国船総数 (B)	(B) に対する (A) の比率
1	京 浜 (東京区間を除く)	490 隻	7.850 隻	6 %
2	神 戸	352	6.407	5
3	伏 木 富 山	302	562	54
4	京 浜 (東京区)	285	1.734	16
5	新 潟	214	499	43
6	名古屋	201	4.002	5
7	舞 鶴 (京都)	174	253	69
8	大 阪	155	3.939	4
9	直江津 (新潟)	130	190	68
10	関 門 (若松区を除く)	88	5.018	2
11	酒 田 (山形)	86	139	62
12	姫 路 (兵庫)	73	461	16
13	小名浜 (福島)	73	589	12
14	千 葉	71	1,749	4
15	敦 賀 (福井)	66	126	52
16	関 門 (若松区)	63	1.096	6
17	秋 田 船 川	60	68	88
18	清 水 (静岡)	57	926	6
19	七 尾 (石川)	56	81	69
20	函 館	51	149	34
21	境 (鳥取)	51	176	29

順位	港 名	ソ連船 (A)	外国船総数 (B)	(B) に対する (A) の比率
22	苫小牧	49 隻	156 隻	31 %
23	室 蘭	42	540	8
23	青 森	42	71	59
25	和歌山下津	37	703	5
26	小 樽	35	168	21
27	福 山	34	839	4
28	徳山下松 (山口)	33	618	5
29	八戸 (青森)	32	163	20
30	釧 路	30	177	17
31	四日市	28	684	4
32	留 萌 (北海道)	26	43	60
32	塩 釜	26	154	17
34	岩 国	24	249	10
35	呉	23	239	10
35	三 池	23	163	14
37	高 松	19	86	22
38	稚 内	18	23	78
38	広 島	18	50	36
40	水 島	17	929	2
41	大 分	16	400	4
42	宇 部	14	230	6
43	博 多	13	594	2
43	東播磨	13	342	4

順位	港名	日ソ船 (A)	外国船総数 (B)	(B) に対する (A) の比率
43	鹿児島	13 隻	173 隻	8 %
46	那覇	12	243	5
47	両津	10	19	53
47	鹿島	10	657	2
47	衣浦	10	249	4
50	高知	9	80	11
50	松山	9	150	6
50	長崎	9	180	5
50	新居浜	9	131	7
54	釜石	8	95	8
54	木更津	8	491	2
56	浜田	7	47	15
56	三角	7	89	8
58	佐世保	6	496	1
58	坂出	6	398	2
58	小松島	6	199	3
58	細島	6	116	5
62	宇野	5	1,968	0.3
63	阪南	4	205	2
64	横須賀	2	304	1
64	萩	2	3	67
66	名瀬	1	9	10
66	宮津	1	8	13
66	尾道糸崎	1	326	0.3
合計		3,871	51,285	8



## ウ 意 見 発 表

### a ブリヤート自治共和国首相 N. B. ピポバーロフ

尊敬する皆さん！

尊敬する会議参加者の皆さん！

私もまた、全国知事会をはじめとする、本会議を組織して下さった方々に心からお礼を申しあげるとともに、暖い友好的な歓迎に感謝いたします。

私自身は、すでにこのような会議に 5 回参加してきました。そしてその大きな利益についてますます確信を深めています。これらの会議は、お互いをよりよく知り合い、また私たち両国すなわちソビエトと日本の互惠の貿易及び文化関係の強化、発展を助けていると思います。

相互的友好関係を発展させ、確固としたものにするために、ソ連邦の他の地方と州とともに、わがブリヤート自治共和国も積極的に参加しています。わが共和国の首都ウラン・ウデ市と日本の留萌市との間に、1972 年に友好関係が確立し、姉妹都市になりました。

ブリヤート自治共和国は百万人をくだらない人口と 4 校の高等教育機関、23 校の中等専門学校をもち、そこで 44,000 人の青年男女が勉学にはげんでおります。また、ソ連邦科学アカデミー分院がある一大学術センターでもあり、そこではブリヤート民族の歴史、共和国の自然の富とその実用的利用、チベット医学療法の研究、その他の重要な科学的問題の解決といった大きな仕事を遂行しています。

最近になってウラン・ウデ市に四つの日本の代表団が訪問しました。かれらは多くの学校、大学、ソ連科学アカデミー分院及びいくつかの企業とくにさいきん建てられたバイカル・アムール幹線鉄道用のメタル建材生産大工場などを参観しました。

また、日本代表団は、わが民族の最良の絵画、民芸品が集中している美術館をも訪れました。

ウラン・ウデ市には、留萌市の好意によって送られた児童絵画展が二つの中学校と幼稚園で開かれています。

今度はウラン・ウデ市執行委員会は留萌市にソビエト 50 周年記念写真展を組織し、また展示品を送ってブリヤート自然展を組織しました。

私たちは芸能人、スポーツ代表団、観光旅行団その他の代表団の交流の拡大に重要な意義をみとめています。

1974 年から 1975 年にかけて、ブリヤート自治共和国から二つの観光団が日本を訪れ、日本の各都市を訪問し、名所旧跡の見学、企業の参観をしました。観光団のメンバーたちは、日本での見聞を満足の意をもって話しています。

この年月にソ連邦人民芸術家で有名なブリヤートのバレリーナ、サヒヤノワ女史が 2 度日本を訪問し、日本のさまざまな都市で公演し、ソビエト時代になって真の繁栄と発展をみたブリヤートの独創的な舞踊芸術を日本の観客の前で披露しました。日本の芸能愛好家は、やはりソ連邦人民芸術家でブリヤート・オペラバレエ劇場のソリストのリンホウオン氏を知っています。彼の声と演出は好評を博しました。

来年の 1976 年には、姉妹都市ウラン・ウデと留萌両都市間のスポーツグループの交換が予定されています。

日本のテレビ会社とソビエトのノーボスチ通信との共同の努力によって、現代のソビエト・ブリヤートの多面的な生活のある程度反映しているテレビ映画がつくられました。

ブリヤート自治共和国と日本の各府県との友好関係において重要な地位を占めているのはソ連邦外国貿易省全ソ輸出入事務所「ダリイントルグ」を通して

の貿易関係の拡大の問題です。

最近の数年間にこの方面での一定の成果が達成されました。沿岸貿易総額を1970年と比較するとそれは約6倍となっており、しかも本年は日本の商社がいくつかの伝統的な商品を買いつけなかったにもかかわらずこれだけのびております。

私達は、沿岸貿易の増大に関心をもっており、その規模の常時またより急速な拡大のため全力をつくしていきます。

とくに現在、アイスクリームの大量の原料を日本に供給する問題を検討しています。

私たちの所には、この製品の必要な原料及び試験的な製造のための最低限の設備があります。そしてもし試験をして最初の製品が日本の商社の要求を満足させることになったら、私たちはこれらの製品を年間アイスクリーム2,500億個まで供給することができます。

ブリヤート自治共和国の領域内にある企業は、箱用板と化粧品工業用の下皿部品の日本供給についてのオファーを「ダリイントルグ」に提案しました。

共和国では、褐炭、白雲石、化学的に純粋な石灰岩、生真珠岩、流紋岩の採掘がとてつもなく発達しています。これらのものは日本へ供給することができるし、そして、もし日本の商社がこれらのものに関心をもつのであれば、私たちは、いま述べた原料の採掘量の著しい増大のための措置を講ずる用意があります。

ブリヤートの軽工業は皮革工業の屑、皮革用にかわ、繊維工業の木綿および羊毛の屑を供給できます。これらの屑は価格が低いため、とくに小企業のために有利です。

私たちの側からは、日本の商社から国民消費物資とくに鉄鋼ロープ、エナメルペンキ、ラッカー、卓電、電話設備、医療設備その他の物質的技術的製品の買

付けに興味をもっています。

最後に、日本の各府県とブリヤート自治共和国との友好関係発展のため少なからぬことがなされていることを申し述べたいと思います。私たちは、ソビエト・ブリヤートの生活とその国民の事業や成果を紹介するツーリストの交流の一層の拡大を望んでいます。また私たちは、沿岸貿易を通じての産物の交換、日本の各府県との経済関係の強化と拡大を望んでいます。私たちの側には売るものがあり、また日本製品をより多く買い付ける希望ももっています。

これらのことにかんがみ、私達は相互的な友好関係の一層の発展を切望している次第です。ご清聴ありがとうございます。

## **б 富山県知事 中 田 幸 吉**

### 日ソ両国の友好親善と貿易の拡大について

親愛なるソビエト社会主義共和国連邦の友人各位の来日を心から歓迎申し上げます。

貴国とわが国とは、日本海をへだてた隣国であります。日ソ両国の国民が、相互に理解を深め、交流を進めることは、日ソ両国にとっても、世界の平和にとっても、きわめて重要な課題であります。

近年、両国国民の相互訪問が年々増加しつつあり、芸術・文化・スポーツなど広い分野で活発な交流が行われていることは、お互いの立場を理解しあううえで、大へん有意義であります。

私達は、今後ともあらゆる機会を通じて、両国間の友好の輪を拡大し、日本海をいつまでも平和の海として守っていきたいと考えております。

日ソ両国にとって、最大の課題は、貿易の拡大であります。

シベリア及び極東地域の豊富な天然資源を開発し、国民生活を豊かにするこ



とは、貴国にとってきわめて重要な課題であると思います。同時に、この資源の供給をうけてシベリア・極東の開発に協力することは、石油や鉱物や木材などの天然資源に乏しいわが国にとっても、まことに大きな課題であります。

このような観点から、われわれはシベリア及び極東地域の開発に大きな関心をもっております。

1959年ソビエト経済使節団が来日されて、日ソ間の経済協力についての提案をはじめ行って以来、日ソ経済合同委員会において、日ソ経済協力についての具体的な話し合いが進められてきました。その結果、極東森林資源開発＝ヤクーチャの天然ガス開発、南ヤクートの石炭開発、サハリンの大陸棚石油・天然ガスの開発などのプロジェクトについて、日ソの経済協力が進められております。

しかし、日ソ経済協力が具体的に進展しつつあるにもかかわらず、日ソ間の貿易が日本側の入超続きとなっており、この不均衡を是正し、貿易をいっそう拡大することが両国の経済発展のうえで、きわめて重要であります。

従来、シベリア及び極東地域の資源開発にあたり、日ソ間の経済協力が必ずしもスムーズに展開しない点がいくつかありました。例えば、貴国の国民経済計画による開発のテンポと日本側の期待する開発テンポのズレや、日本側の交渉窓口が一本化されていないことなどが主な理由として考えられますが、この点については、日本側として改善の余地があると思っております。

今後、両国間で合意に達した開発プロジェクトを推進するにあたり、個々の懸案事項を具体的に検討し、長期的展望に立って問題を解決しなければならないものと考えております。

次に、漁業資源の確保は、漁業の振興上きわめて重要な問題であります。

サケ・マスなどの海洋資源の保護増殖についての研究調査や増殖事業は、日

ソ両国が共同して実施することにより、その成果が増大するものと思います。幸い、先日サハリンにおいて、サケ・マスの稚魚の放流と共同の研究機関を設置することが決定しましたが、今後ともこのような協力体制を強化することが必要であると考えております。

各位には、日本各地の現状をつぶさに御視察いただくとともに、多くの人々と接していただき、日本国民の日ソ交流拡大に対する熱意を汲みとっていただきたいと存じます。

## (2) 日ソ貿易・経済の協力について

### ア ソ連側代表報告

#### 在日ソ連通商代表 V. B. スパンダリアン

##### ソ日貿易・経済協力について

尊敬する全国知事会会長の木村さん。尊敬するソ連代表団の団長デムチェンコさん。尊敬する日本の知事の皆様。ソ連代表団の代表の皆様。

ソ連がすすめている平和共存と国際緊張緩和の政策は、さまざまな国々との貿易・経済関係の発展と強化のための好ましい条件をつくり出しています。この政策は、1975年8月にヘルシンキで行われた会議で採択された経済・貿易協力、産業協力、科学、技術その他の分野における一連の重要な協定のなかに反映しています。

ソビエトは、工業の発達した資本主義諸国との間に相互利益に基づいた経済関係を積極的に発展させています。このことは同時に、これらの国々との政治関係をより確固とした基盤の上におき、それに建設的性格と大きな安定の可能性を与えています。

ソビエトの経済は急速で安定したテンポで発達しています。第9次5か年計

画の4年間における工業生産は3分の1以上も増加しました。ソビエトは、現在世界の全工業製品の5分の1を生産しています。石炭、石油、鉄鉱石の採掘、鋳鉄、鉄鋼の生産量、トラクター、鉱物肥料その他一連の製品生産においてソ連邦は世界で第1位を占めています。第9次5か年計画期には約1,700の大工業企業が操業を開始しました。カマ自動車工場、サヤン・シューシェンスコエ水力発電所、バイカル・アムール（バム）幹線鉄道といった新しい巨大企業の建設も大規模に進んでいます。機械製作、エネルギー、化学、石油化学、電子工学、自動化手段の生産といった技術革新を決定する経済分野が計画を上回るテンポで発展しています。

ソビエトの高度な、安定した経済成長テンポは、日本を含む世界の多くの国々との対外貿易関係の急速な成長を保障しました。

最近、産業の安定した発注を保障する長期協定の実際の締結と関連して、日本との貿易経済関係に新しい可能性が開かれました。

ソビエトは、相互利益にもとづく貿易、経済協力の発展を、私たちの隣国との善隣と友好関係の強化のための主要な道具の一つとみています。

ソビエトは、平等、国家主権の尊重、相互利益の原則、採択された債務の厳守といった原則にもとづいて、日本との経済関係をうちたてています。

ソ連と日本との貿易経済関係の発展について語るにあたって、まず最初に、これまでのすべての年月にわたって安定した貿易高の成長を指摘しなければなりません。

1970～74年の5年間のソ日貿易の年間成長率は年平均20%を上回っていました。

1972年のソ連と日本の商品取引総額がはじめて10億ドルとなり、1974年には25億ドルを上回りました（日本側の発表）。1975年には、これは

ほんの予めの評価ですが、私たち両国間の商品取引高は 30 億ドルに達するか  
もしれません。

輸出と輸入について少しふれてみたいと思います。

私たちは日本に対し、日本経済に非常に重要で、しかも地元の産業と競合し  
ない製品を供給しています。

例えば、1974 年には日本に対し、一般用材 740 万立方メートル以上、  
綿花 13 万 2,000 トン、コークス炭 300 万トン以上、鉄鉱石 100 万トン  
を供給しましたし、石綿 6 万 7,000 トン、鑄鉄 5 万トン、鉄くず 11 万 6,000  
トン、カリ塩 20 万トン、石油及び石油製品 130 万トン、アルミニウム 3 万  
9,000 トンなど多量の非鉄金属、稀金属、貴金属を供給しました。まだまだ  
量的には僅少ですが、日本への輸出の拡大に関連して一定の成功を収めたもの  
としてはソビエトの金属切削機械をはじめとする機械と設備類をあげることが  
できます。

1974 年にはソビエトによる日本製品の輸入は 2 倍以上になりました。し  
かもその場合日本の冶金及び化学製品の輸入価格が 3 倍以上であり、繊維製品  
及びいくつかの消費物資の日本からの私たちの買いつけ量は 2 倍以上となりま  
した。

機械及び設備の輸入は 11%増加しましたし、しかもこれは日本からのソビ  
エトの買いつけ総額の 20%を上回っています。

経済不況に関連して日本の輸出一般の減少にもかかわらず、1975 年のソ  
日貿易はまたも一層の発展を示し、ソビエトの日本製品の輸入は著しいのびを  
みせました (40%)。沿岸貿易も順調に進展しています。沿岸貿易の目的は、  
ソ連邦の極東地域と日本との間の消費物資の交換を通じて貿易・経済関係を発  
展させることであり、それに関連して、日本へ売るための新しい製品をみつけ

だし、その見返りとしてソ連邦の極東地域のための一般消費物資、一連の機械及び設備、漁業機材、医薬品、果実その他の製品を買いつけることです。

沿岸貿易は、それがはじまってから比較的短期間に、その活力を証明し、ソ日貿易にますます顕著な貢献をしており、しかも日本でのその人気はいよいよ高まっています。

1975年の沿岸貿易を通じての相互供給高は4,000万ルーブルとなり、沿岸貿易を調整する政府間交換書簡で見込まれていた予定額をはるかに上回りました。

沿岸貿易の効果は、中小企業商社、協同組合連合、協会などをソ日経済関係の分野に引き入れることにあります。現在、100以上のこのような対外貿易団体が沿岸貿易に参加しています。

今年の10月、モスクワにおいて1976～1980年のソ連と日本の貿易支払新5か年協定調印のため、ソ日交渉が行われました。

新5か年協定は、ソ日貿易の一層の著しい成長を見込み、世界の資本主義市場と国際通貨制度が容易ならぬ困難に直面している時に、長期にわたる、また安定を基盤とした日本との貿易の発展のための最良の条件をつくり出しています。

客観的基盤にもとづいた、たゆまぬそして急速なソ日貿易の成長の要因としては、まず第1に両国の経済構造の相互的な補完性、第2にその地理的近接性をあげることができます。

しかしながら、ソ日貿易が今日まで到達したレベルは、私たち隣国としての両国の経済的協力の発展の潜在的可能性にはほど遠いものです。ソ日貿易発展の大きな潜在的可能性を現実化するカギは、国際労働分業の優越性の利用と地理的に隣接しているという要因を基盤とした大規模かつ長期にわたる経済的協

力です。

ソ日経済協力は1968年、第1次木材協定（KS）調印によってはじまりました。5年間にそれは成功裡に遂行されました。これとほとんど時を同じくしてもう二つの協力プロジェクトつまりウランゲル湾のウォストーチヌイ港の建設と紙パルプ工業のための原料の日本への供給プロジェクトがはじまりました。

1973年秋のモスクワにおけるトップ会談の結果、経済協力のプロジェクトの進行の話しあいがありました。これはソビエトの諸機関と日本の業界のイニシャチブが糸口となりました。

ソ連邦と日本との経済関係の歴史において初めて、日本輸出入銀行が10億ドル以上の金額をソビエトに融資することを見込んだ政府間バンクローンが調印されました。その後1974年には、南ヤクート炭（20年間に1億400万トンを見込む。）及び第2次木材プロジェクト（1,750万立方メートルの一般用材と約100立方メートルの製材丸太を見込む。）に関する一般並びにクレジット協定が調印されました。そして最後に1975年1月にサハリン島大陸棚の石油・ガス探査一般協定が調印されました。

石炭及び第2次木材プロジェクトの実質的実現のための機械、設備、国民消費物資のソビエト諸機関による日本からの買付けはすでにはじまっており、しかも今日、日本市場から買付けを見込んでいる機械、設備総額のおよそ45%が契約済みであります。1975年にはこれら二つのプロジェクトのためだけでも日本の商社から3,600万ドルを上回る消費物資が買付けられました。

現在、ソ日経済協力のうえでのいくつかの重要なプロジェクトについて話し合いが進められていますが、特にそれらは極東に二つの大製紙パルプ・コンビナートの建設とヤクート天然ガス産地探査仕上げ及びその後の開発についての

ソ・日・米プロジェクトです。

紙パルプ・コンビナート建設の協力についての日本側の提案はソビエトの諸機関で検討されています。双方は技術的問題確認のためこの分野の専門家の交換に賛同しました。

ヤクート天然ガス産地探査仕上げ及び開発に関するソ・日・米プロジェクトについては、アメリカおよび日本との相応するクレジット協定締結の問題でアメリカ側に困難ができたためいくぶんのブレーキがかかっています。

現在もっとも現実的な課題は、コスイギン・ソ連邦閣僚会議議長が 1974 年 11 月に日本の経済界の指導者の皆さんに提案したように、この 10～15 年を見越した相互利益に基づいたソ日経済協力の展望を定めることです。10～15 年を見越したソ日経済協力計画の作成は、1990 年までのソビエト経済発展計画と結びつけることもできます。

私たちは、西ヨーロッパの多くの国々と長期協力計画作成の肯定的な経験をすでにもっています。例えば私たちは、すでにフランス、ベルギー、イタリア、西ドイツ、イギリス、フィンランドと経済協力、産業協力、技術協力協定及び具体的な 10 年計画をもっています。フランス、イタリア、イギリス及びいくつかの国々はソビエトに巨額なバンクローンを与えています。西ヨーロッパの一連の国々およびアメリカには、ソビエトの特別の買付委員会が設立されており、それらはその国々の商社から与えられたクレジット分からの機械、設備、資材を短期間に買い付ける目的で設けられています。

この面で日本は西ヨーロッパ諸国よりいくらかおくれており、そのことが日本商社のソビエト市場における競争力の低下となっています。

ソ日経済協力発展の将来の展望は、ソ連邦の東部諸地域の急速な発展に大きく依存しています。

というのは、戦後のわが国のシベリアと極東における工業発展は、ソ連邦全体のそれより 1.5 倍早かったのです。シベリアと極東（1,280 万平方キロ）は、地球上の全陸地面積の 8%以上をしめ、ソビエト領土の半分以上におよんでいます。シベリアの地下には人類が知っているすべての天然資源が埋蔵されています。

豊富なまた安価なエネルギー源、原料、水資源に立脚して、すでに現在、全ソ的意義をもつエネルギー資源、水資源及び原料を多く必要とする企業がシベリアの諸地方へ移転しています。

ソ連邦の東部諸地域の自然の富の一層の開発に大きな刺激となったのは、全人民的建設と呼ばれ、すでにはじまっているバイカル・アムール幹線鉄道の建設です。1982 年にそれが操業を開始したあかつきには、多くの鉱物原料資源が経済に導入されることが可能となります。それらはコークス炭、鉄及びマンガン鉱、銅、金、ニッケル、亜鉛、錫、モリブデン、その他の非鉄金属及び稀金属、燐灰石、石綿、雲母、木材などです。バイカル・アムール沿線には、ソビエト国民の努力によって鉱坑、採石場、工場がたち、自動車道路、パイプラインが敷かれ、飛行場ができることでしょうし、ここに労働者部落や町もできることになっています。チユメニの石油、ウドカンの銅、チュリマンの石炭、南ヤクートの鉱石、バイカル湖東方地域の木材などこれらすべてとその他多くのものが、バイカル・アムール幹線鉄道に集まり、そして西にあるいは東の工業中心地に、太平洋沿岸の諸港とくに日本への輸出のために運ばれていきます。

バイカル・アムール鉄道のすぐ沿線に、すでにネリユングリ試掘坑道を基盤とした南ヤクート石炭コンビナート（年間 1,200 万トンのコークス炭）の建設が日本の民間会社との協力ではじまりました。ネリユングリ産地より 100 キロの地点、アムール・ヤクート自動車幹線道路に沿って巨大なアルダン鉄鉱



石帯が分布しています。この地域の埋蔵量は 25～30 億トンと推定されています。つい最近、アルダンの中央部でセリグダルスク燐灰石産地が発見されました。その埋蔵量は数十億トンと評価されています。そしてもし南ヤクートの天然ガスの埋蔵量を考慮に入れるならば、この地方の将来の発展性はきわめて有望であります。

私たちは、大規模なソ日経済協力における移行、つまり、天然資源の開発協力から、鉄及び非鉄金属、石油及びガス加工、石油化学及び化学、紙パルプ産業の諸部門における大工業コンビナートのシベリアでの建設への協力への移行が、ソビエトのためにも、また日本のためにも利益となると考えています。

われわれ両国間の長期的で大規模な経済協力の一層の発展のためには、ソビエトの機関と日本の商社間の相互理解だけではなく、両国の政府機関の支援が必要です。

私たちは全面的にそれに協力する用意があります。というのは、私たちの考えでは、ソ日貿易及び経済協力の発展は、ソ日両国民並びに世界の平和の利益となり、ソ連邦と日本の善隣関係の一層の強化のためのよい基盤であるからです。



## イ 日本側代表報告

### 日ソ貿易・経済の協力について

福井県知事 中 川 平太夫

日本とソ連邦との経済関係は年々深まり、それとともに両国間の貿易がますます発展していることを私たちは大きな喜びとしております。

日ソ貿易における取引高は、1973年には総額15億ドルでありましたが、74年には総額25億ドルと、大きく拡大いたしました。しかも、74年から本年にかけ、相次いで調印されたいくつかのシベリア開発協力プロジェクトが本格的に動きはじめるならば、日ソ間の貿易は、今後飛躍的に発展することが期待されており、平和と友好、互惠平等を基礎とした日ソ経済交流は、より緊密化していくものと思われまます。

私は、まず日ソ経済関係の中で、わが国の地方自治体、地方産業、中小企業が特別の期待を寄せている日ソ沿岸貿易について述べたいと思います。

ご承知のとおり、日ソ沿岸貿易は、両国政府間の合意に基づいて1963年にはじまったものでありますが、最初の年は、輸出入合計130万ドルというわずかな取引額にすぎなかったものが、1973年には約3,000万ドル、74年には約3,570万ドルと大きな発展をして参りました。このように、

地域貿易という特殊性に基づく各種の制約があるにもかかわらず、着実な発展を見せておりますことは、日ソ双方関係者各位の並々ならぬ努力の賜であり、深く敬意を表するものであります。

また、本年10月下旬には、モスクワにおいて第2回日ソ沿岸貿易振興会議が開かれ、日ソ両国の政府代表が、沿岸貿易の発展方策につき鋭意話し合ったところでありますが、今後におけるその成果が大きく期待されます。

現在、わが国の主な対ソ輸出品目は、繊維製品が総額の半分近くを占め、ついで靴、ワイヤロープ、塗料、電卓、テープレコーダー、トランジスターラジオ、家具等であり、一方、主な輸入品目としては、木材が総額のなかば近くを占め、その他めんたい、えび、数の子等の水産物、石炭、農畜産物、鉱産物、化学品原料があります。

われわれは、沿岸貿易を重視し、毎年多くの県や市当局が沿岸貿易振興のため見本市参加、市場調査員派遣、視察団派遣、サンプル輸出補助等に相当額の予算を支出し尽力いたしておりますが、今後、貴国との沿岸貿易を飛躍的に発展させる上で、とくに次のような諸問題があり、その解決を強く望むものです。

(1) 「取引品目の拡大と安定化」について

沿岸貿易を長期・安定ベースにおき、発展させるためには、ソ連の対日輸出品目を単に計画達成後の余剰物資に限らず、とくに極東・東部シベリアの産物で重要な対日輸出商品、たとえば木材、水産物、鉱産物の一定数量あるいは一定率を沿岸貿易の対日輸出品としてダリイントルグ扱いすることが望まれます。

(2) 「価格問題」について

輸出入品の価格を適正化すべきであります。たとえば、沿貿材が公団材の10%高であることは当を得ません。日本側の輸出商品が公団向け商品と同じ価格で取引されている現状からみますと、輸入における割高は関係者を非常な困難におとしおいております。

(3) 「ダリイントルグ日本事務所設置」について

沿岸貿易の発展をはかるためには、ダリイントルグの組織、権限を強化されるとともに、とくに日本にダリイントルグの中央および地方事務所を開設することが強く望まれております。

つぎに日ソ両国の経済協力の大きな事業として、シベリア・極東開発協力プロジェクトがあります。

ご承知のように、1966年に第1回日ソ経済合同委員会

が開催されてから現在までに 6 回の合同会議が開催され、この間にシベリア・極東開発協力について合計九つのプロジェクトが提案され、討議されてまいりました。

現在までに、第 1 次極東森林資源プロジェクトが 1973 年に完了し、ウランゲル港建設協力プロジェクトおよび工業用チップ・パルプ材開発輸入プロジェクトが現在実施中ではありますが、1974 年から 75 年にかけて四つの大規模なプロジェクトが両国の間で新たに調印されました。

その一つは南ヤクート原料炭開発プロジェクトで、わが国はこれに 4 億 5,000 万ドルのバンクローンを供与することになっています。

その 2 は第 2 次極東森林資源開発プロジェクトで、わが国から 5 億 5,000 万ドルのバンクローンが供与されます。

その 3 はサハリン大陸棚探鉱開発プロジェクトで、日本はこれに 1 億 5,250 万ドルのクレジットを供与する計画です。

その 4 はヤクーチャ天然ガス対日供給プロジェクトで、日本とアメリカが各々 1 億ドルのバンクローンを供与することになっているものです。(ただしこの最後のプロジェクトは、基本契約調印のあと具体的進展を見ていません。)

以上のほかに、チュメニ石油対日供給プロジェクトおよび

紙パル＝・コンビナート・プロジェクトがソ連側より提案され、目下検討中であります。

これらはいずれも大規模なプロジェクトであり、これが実現すれば、日ソ貿易は飛躍的な発展が期待できるのであります。

つぎに、沿岸貿易とならんでわれわれの関心を引いております協同組合貿易について述べたいと思います。

協同組合貿易とは、ソ連の消費協同組合連合会（ツェントロ・サユース）と日本の生活協同組合または中小企業との貿易取引を指しておりますが、1974年の輸出入額は4,000万ドル弱と推定されます。

日本側の輸入は、木材（製材用丸太）が大半を占めており、輸出商品としては衣類、織物、タオルなどの繊維製品が過半を占めております。

組合貿易の問題点としては、①沿岸貿易の場合と同様、木材の対ソ輸入の比重が大きすぎますので、他の品目をふやす必要があります。②木材の輸入価格が公団材に比べ7%も高くなっておりますので、これを是正する必要があります。③また、消費物資の対ソ輸出品目も沿岸貿易の場合より限られておりますので、これを拡大することが必要＝と思います。

つぎに、日ソ貿易の増大と経済協力の拡大に重要な役割を果たしております各種見本市開催にふれてみたいと思います。

1974年7月、ハバロフスクで「日本軽工業製品・機械見本市」が開かれましたが、これには日本の21道府県と四つの市が出品し、私自身も開幕式に出席しましたが、約5万人の参観を得てかなりの取引の成約もあり、盛会裏に終わりました。

また特筆すべきことは、1974年9月にモスクワで新潟県が単独で県産品総合見本市を開き、繊維製品、金属洋食器など千数百点を展示し、大きな成果をあげたことであります。ソ連における県単独の見本市は、1972年の岐阜県主催のものに次いでこれが2番目です。

本年は、6月にミンスク市で開催されたスポーツ用品とスポーツウェアの国際見本市に、日本の地方産業が大挙して参加しました。1980年のモスクワ・オリンピックをひかえて、この見本市は大きなもり上りを見せました。

次いでこの10月には、モスクワで「日本消費物資見本市」が開催され、繊維製品を中心に日常消費物資の展示が行われました。これには山形県、新潟県、富山県、石川県、福井県、神奈川県、奈良県、徳島県等が出品しました。この見本市開



幕式には、私が団長をつとめた見本市地方代表団も参加して、  
雰囲気をもり上げた次第であります。

これらの行事に続いて、本日ここ東京で開かれました第7  
回目の日ソ知事会議で、重ねて日ソ貿易・経済協力の一層の発展  
ということが議題のひとつとして選ばれ討議されることにな  
ったことは、まことに有意義なことであると思います。

日ソ間の貿易・経済関係が今後さらに発展、拡大して行く  
ことは、地方産業・経済の振興と繁栄、そして地域住民の福  
祉と生活水準の向上をめざす両国地方行政責任者にとって、  
共通の深い関心事であると思います。この共通の目的を追求  
してゆく上において、われわれは隣邦の最も親しい友人同志  
として、共に手をたずさえて進んでいきたいことを念願しつ  
つ、この短い報告を終らせていただきます。



[ 参考資料 ]

- 1 日ソ貿易年別統計
- 2 1974年品目別統計
  - (1) 対ソ輸出構成
  - (2) 対ソ輸入構成
- 3 日ソ沿岸貿易の推移
- 4 1974年沿岸貿易高
- 5 シベリア開発協力プロジェクトの概要
- 6 ソ連の外国貿易



1. 日ソ貿易年別統計—日本側の統計（輸出 FOB、輸入 CIF  
ベース。通関統計）

（単位：100 万ドル）

年次	通 関 統 計			
	輸 出	輸 入	合 計	バ ラ ン ス
1958	18	22	40	— 4
1959	23	39	62	— 6
1960	60	87	147	— 27
1961	65	145	210	— 80
1962	149	147	296	+ 2
1963	158	162	320	— 4
1964	182	227	409	— 45
1965	168	240	409	— 72
1966	214	300	514	— 86
1967	158	454	612	— 296
1968	179	464	643	— 285
1969	268	462	730	— 194
1970	341	481	822	— 140
1971	377	496	873	— 119
1972	504	594	1,098	— 90
1973	484	1,078	1,562	— 594
1974	1,096	1,418	2,514	— 322

2. 1974年品目別統計（通関統計）

(1) 対ソ輸出構成

(単位 1,000ドル)

商 品 名	数量単位	数 量	金 額	比重%
総 計	—	—	1,095,642	100.0
食 料 品	—	—	953	0.1
原 燃 料	—	—	9,537	0.9
合 成 ゴ ム	MT	2,999	4,547	0.4
石 油 製 品	—	—	687	0.1
溶 解 用 パ ル プ	MT	6,542	2,948	0.3
軽 工 業 品	—	—	198,313	18.1
繊 維 品	—	—	150,354	13.7
繊 維 原 料	MT	777	14,158	1.3
毛 糸	MT	2,773	20,742	1.9
合 成 繊 維 糸	MT	2,240	9,398	0.9
人 絹 糸	MT	5,042	13,607	1.2
合 成 繊 維 織 物	1,000SM	14,972	19,328	1.8
ニ ッ ト 生 地	MT	7,322	41,801	3.8
繊 維 二 次 織 物	—	—	29,858	2.7
衣 類	—	—	13,437	1.2
非 金 属 鉱 物 製 品	—	—	17,554	1.6
ガ ラ ス ・ 同 製 品	—	—	3,021	0.3
陶 磁 器	—	—	11,092	1.0
そ の 他 の 軽 工 業 品	—	—	30,405	2.8

(単位：1,000 ドル)

商 品 名	数量単位	数 量	金 額	比重%
ゴ ム 製 品	—	1,794	11,010	1.0
は き も の	—	3,552	3,488	0.3
スライド・ファスナー	—	2,942	6,872	0.6
重 化 学 工 業 品	—	377,013	862,844	78.8
化 学 品	—	42,659	109,599	10.0
有 機 化 合 物	—	6,325	21,820	2.0
ア ル コ ー ル ・	MT	7,088	7,992	0.7
フ エ ノ ー ル 類	MT	2,652	5,574	0.5
窒 素 官 能 化 合 物	—	—	11,724	1.1
無 機 化 合 物	—	—	11,724	1.1
染 料 ・ 塗 料 等	MT	1,572	2,535	0.2
人 造 プ ラ ス チ ッ ク	—	—	65,916	6.0
塩 化 ビ ニ ー ル 樹 脂	MT	20,728	21,874	2.0
( 原 料 )				
金 属 品	—	—	513,805	46.9
鉄 鋼	MT	1,317,463	481,598	44.0
棒 形 鋼	MT	901,447	265,756	24.3
厚 板	MT	25,181	21,531	2.0
薄 板	MT	127,819	49,913	4.6
ブ リ キ 坂	MT	81,336	35,374	3.2
鋼 管	MT	168,599	99,752	9.1
非 鉄 金 属	—	—	9,303	0.8
金 属 製 品	—	—	22,904	2.1
よ り 線、綱、網類	MT	7,162	8,382	0.8
鉄 鋼 製 構 造 物	MT	4,991	6,203	0.6
建 設 材 料				

(単位：1,000 ドル)

商 品 名	数量単位	数 量	金 額	比重%
手道具および工具	—	—	6,120	0.6
機 械 機 器	—	—	239,440	21.9
(機 械 類)	—	—	229,005	20.9
一 般 機 械	—	—	149,479	13.6
蒸気タービン	NO	6	3,815	0.3
内 燃 機 関	—	—	6,615	0.6
(除航空機用)	—	—	—	—
農 業 用 機 械	—	—	4,044	0.4
事 務 用 機 器	—	—	6,370	0.6
電 子 計 算 機	NO	45,706	4,630	0.4
金 属 加 工 機 械	—	—	39,400	3.6
織 維 機 械	—	—	12,641	1.2
建 設 ・ 鉱 山 機 械	—	—	1,022	0.1
加 熱 または 冷 却 用 機 器	—	—	11,193	1.0
荷 役 機 械	—	—	15,334	1.4
軸 受	MT	1,016	3,676	0.3
コック、弁類	MT	760	5,246	0.5
電 気 機 械	—	—	30,866	2.8
重 電 機 器	—	—	8,493	0.8
絶 縁 電 線	MT	370	1,095	0.1
電 気 計 測 機 器	—	—	4,520	0.4
電 気 用 黒 鉛	—	—	3,599	0.3
炭 素 製 品	—	—	—	—
輸 送 機 械	—	—	49,786	4.5
鉄 道 車 両	—	—	20,409	1.9



商 品 名	数量单位	数 量	金 額	比重%
自動車 (除部品)	NO	269	7,703	0.7
船 舶	—		12,683	1.2
精 密 機 器	—		9,309	0.8
電 子 顕 微 鏡	NO	51	1,640	0.1
再 輸 出	—		23,995	2.2
等 殊 取 及 品				

## ( 2 ) 対 ソ 輸 入 構 成

(単位 1,000 ドル)

商 品 名	数量単位	数 量	金 額	比重%
総 計	—	—	1,418,143	100.0
食 料 品	—	—	42,416	3.0
鯨 肉	MT	18,572	7,991	0.6
魚 介 類	MT	46,826	25,827	1.8
魚の粉およびミール	MT	3,136	1,744	0.1
原 料 品	—	—	803,153	56.6
織 維 原 料	MT	130,499	194,599	13.7
綿 花	MT	126,145	189,645	13.4
亜 麻	MT	3,418	997	0.1
絹	MT	936	3,958	0.3
金 属 原 料	1,000MT	1,425	56,407	4.0
鉄 鉱 石	1,000MT	987	13,860	1.0
鉄 鉱 く ず	1,000MT	171	30,314	2.1
非 鉄 金 属 鉱	1,000MT	266	12,233	0.9
マンガン鉱	MT	143,478	4,724	0.3
クローム鉱	MT	122,650	7,509	0.5
その他の原料品	—	—	552,147	38.9
毛 皮	—	—	2,076	0.1
木 材	1,000CM	8,306	520,643	36.7
丸 太	1,000CM	8,176	509,914	36.0
製 材	1,000CM	130	10,730	0.7
パ ル プ	MT	19,444	6,932	0.5
石 綿	MT	64,961	10,646	0.8

( 単 位 1,000 ド ル )

商 品 名	数量単位	数 量	金 額	比重%
鉱物性燃料	—	—	213,236	15.0
石 炭	1.000MT	3,309	110,110	7.8
無 煙 炭	1.000MT	53	907	0.1
原 料 炭	1.000MT	3,193	107,592	7.6
強粘結炭	1.000MT	2,786	95,383	6.7
弱粘結炭	1.000MT	407	12,210	0.9
原油および粗油	1.000KL	276	20,873	1.5
石 油 製 品	—	—	81,590	5.8
重 油	1.000KL	975	79,808	5.6
加 工 製 品	—	—	356,909	25.2
化 学 品	MT	27,585	45,512	3.2
有機化合物	—	—	8,516	0.6
無機化合物	MT	19,139	14,382	1.0
化学肥料	MT	316,871	19,972	1.4
機 械 機 器	—	—	8,831	0.6
( 機 械 類 )	—	—	8,599	0.6
一 般 機 械	—	—	5,783	0.4
金属加工機械	—	—	4,921	0.3
電 気 機 械	—	—	1,467	0.1
船 舶	—	—	1,135	0.1
解体用船舶	—	—	1,112	0.1
その他の製品	—	—	302,566	21.3
ダイヤモンド	KG	1	7,122	0.5

(単位：1,000ドル)

商 品 名	数量単位	数 量	金 額	比重%
銑 鉄	1,000MT	79	10,007	0.7
非 鉄 金 属	—	—	272,015	19.2
白 金	KG	14,113	85,871	6.1
ニッケル	KG	19,727	68,464	4.8
銅および同合金	MT	17,142	37,703	2.7
ニッケルおよび同合金	MT	4,757	17,128	1.2
アルミニウムおよび同合金	MT	47,005	31,909	2.3
再輸入特殊取扱品	—	—	2,426	0.2

3. ソ沿岸貿易の推移（日本側数字）

（単位：100 万ドル）

年 次	日本の輸出	日本の輸入	合 計
1963 年	0.4	0.9	1.3
1964 年	1.8	2.5	4.3
1965 年	1.3	4.0	5.3
1966 年	5.3	4.8	10.1
1967 年	6.1	7.0	13.1
1968 年	5.6	5.8	11.4
1969 年	6.9	8.3	15.2
1970 年	8.4	10.0	18.4
1971 年	5.0	9.0	14.0
1972 年	11.0	17.0	28.0
1973 年	11.6	18.1	29.7
1974 年	17.5	18.2	35.7

（株） 輸出は FOB、輸入は CIF

ただし、1963 年は輸出入とも FOB

（通産産業省南アジア東欧課調べ）

4 1974年沿岸貿易高

(単位：1,000ドル)

日本の輸出 FOB		日本の輸入 CIF	
品 目	金 額	品 目	金 額
繊維製品	8,000	木材	8,000
靴	3,000	石炭	3,500
ワイヤ・ロープ	2,500	鉱産物化学原料	500
塗料他	1,000	農畜産物(ワラビ, 蜂蜜, 馬肉, 鹿皮, 鹿角等)	1,000
電気製品(電卓, インターホン, テープレコーダー, トランジスタ・ラジオ等)	800	明太	2,500
その他(家具, 漁具, 陶器類等)	2,200	魚卵	2,000
		赤えび, 鯨肉その他水産物	700
計	17,500	計	18,200

輸出入合計 35,700

(外務省東欧第一課調べ)

5. シベリア開発プロジェクトの概要

(50 . 9 . 30

通産省南アジア東欧課)

プロジェクト名	プロジェクトの骨子	履 行 状 況
<p>第1次KS(極東森林資源開発)プロジェクト 交 渉 窓 口 日本側：木材委員会(河合良成委員長) ソ連側：外国貿易省(L. I. セトフ総局長) 基本契約当事者 日本側：ケイエス産業(株)(河合良成社長) ソ連側：全ソ木材輸出公団 (V. N. アクラートフ総裁)</p>	<p>① 日本から極東森林資源開発のため必要な設備、機資材を延払い方式(総額1.33億ドル)により1969～71年の間に、また消費物資(1969、70年各年1,500万ドル)を後払い方式により各対ソ供給する。 ② ソ連から1969～73年の5カ年にわたり丸太760万m<sup>3</sup>、製材42万m<sup>3</sup>を対日供給する。</p>	<p>1968. 7 基本契約調印・発効 履行実績(1969～73年) ○輸出 (設備・機資材 1.19億ドル (遂行率 89.5%) 消費財 2,988万ドル (同 99.6%) ○輸入 (丸太755.5万m<sup>3</sup> (遂行率 99.4%) 製材6.4万m<sup>3</sup> (同 15.2%) ソ側の供給余力不足による)</p>
<p>ウランゲル港建設協力プロジェクト 交 渉 窓 口 日本側：港湾輸送(委)ウランゲル港建設協力小(委)(山縣勝見委員長) ソ連側：外国貿易省(V. N. スシコフ総局長) 基本契約当事者 日本側：ワイニイ(株)(山縣勝見社長) ソ連側：全ソ機械輸入公団 (V. P. ニーニユシユキン副総裁)</p>	<p>ナホトカ港の対岸ウランゲル湾に最新の港湾荷役設備を有する新港を建設するため、①石炭ピア、および石炭、チニ、コンテナの総合荷役設備の設計を日本が引き受けるとともに、②1971～73年の期間に同港湾施設建設用の機械・資材および石炭、チップ、コンテナの各荷役設備を日本から延払い方式(総額約8,000万ドル)により対ソ供給する。</p>	<p>1970. 12 基本契約調印・発効 1974. 7 対ソ供給される設備、機資材の納期を1975年末まで再延長することにつき双方合意。 履行実績状況 ○対ソ供給機械等契約成立高：約6.974万ドル(遂行率87%、75年2月現在) ○新港建設状況 ① 木材岸壁：1973年12月完工(取扱能力40万m<sup>3</sup>/年) ② チップ：1974年末完工予定(同80万m<sup>3</sup>/年) ③ コンテナ：1975年中頃(同14万個/年) ④ 石炭棧橋：1976年末完工予定(同500万トン/年)</p>
<p>工業用チップ・パルプ材開発輸入プロジェクト 交 渉 窓 口 日本側：紙パルプ委員会(田中文雄委員長) ソ連側：全ソ木材輸出公団 (V. N. アクラートフ総裁) 基本契約当事者 日本側：日本チップ貿易(株)(田中文雄社長) ソ連側：全ソ木材輸出公団 (V. N. アクラートフ総裁)</p>	<p>① 日本から広葉樹パルプ用長材およびチニの開発に必要な設備、機資材を延払い方式(総額約4,500万ドル)により1972～74年の期間に対ソ供給する。 (このほか約500万ドルの消費物資を現金払いにより対ソ供給) ② ソ連から1972～81年の10年間に広葉樹パルプ用長材470万m<sup>3</sup>、工業用チップ805万m<sup>3</sup>(但し、個別契約により800万m<sup>3</sup>へ改訂)を対日供給する。</p>	<p>1971. 12 基本契約調印・発効 履行実績(74年11月末現在) ○輸出 3,206万ドル(遂行率71%) (但し 現金払いによるチニ専用船2隻1,900万ドルを含む。) ○輸入 (単位 万m<sup>3</sup>) ( ) 内は基本契約の各年別規定数量に対する遂行率 ニルニ材 チニ 1972年 27.2 (91%) 3.4 (68%) 73年 25.1 (63%) 8.9 (44%) 74年 20.1 (40%) 10.0 (25%) 75年 14.9 (30%) 5.0 (7%) 4月末現在</p>

プロジェクト名	プロジェクトの骨子	最近の経過
<p>南ヤクート原料炭対日供給プロジェクト 交渉窓口 日本側：石炭委員会（榎田久生委員長） ソ連側：全ソ鉱工品輸出公団 （B. Z. ニコラエンコ総裁）</p> <p>基本契約当事者 日本側：南ヤクート炭開発協力（株） （榎田久生社長） ソ連側：全ソ鉱工品輸出公団 （B. Z. ニコラエンコ総裁）</p>	<p>① 日本から4.5億ドル（うちローカルコスト60百万ドル）相当円のバンクローンを供与し、バム〜ベルカキニト間の鉄道建設を含む南ヤクート炭田（ネリユングラ鉱床）の開発に必要な設備、機 資材等を1975〜81年の間に対ソ供給する。</p> <p>② ソ連からネリユングラK炭（1983年320万トン、84年420万トン、1985年〜98 年各年550万トン、計8,440万トン）およびクズネツ炭（1979〜98年各年100万トン 計2,000万トン）を長期契約により対日供給する。</p>	<p>1970.8 南ヤクート炭田現地視察 1972.2 第5回合同会議にてソ連側より提案 1973.4 東京で第1回交渉 1973.6〜7 モスクワで技術討議 1974.3 モスクワで第2回交渉 1974.4 東京で第3回交渉 " " 東京で本件クレジット交渉（主要条件につき合意） 1974.6 モスクワで基本契約調印 " " 東京で借款契約調印、基本契約発効 1974.7 政府間書簡交換</p>
<p>第2次KS（極東森林資源開発）プロジェクト 交渉窓口 日本側：木材委員会（河合良一委員長） ソ連側：外国貿易省（K. K. ニフトフ総局長）</p> <p>基本契約当事者 日本側：ケイエス産業（株）（河合良一社長） ソ連側：全ソ木材輸出公団 （V. N. アクラートフ総裁）</p>	<p>① 日本から5.5億ドル（うちローカルコスト50百万ドル）相当円のバンクローンを供与し、森林 開発に必要な設備、機資材、木材輸送船などを1975〜78年の間に対ソ供給する。</p> <p>② ソ連から1975〜79年の5年間に17.5百万ニの丸太および0.9百万ニの製材品を対日供給 する。</p>	<p>1972.10 } 1973.7 }モスクワで予備交渉 1973.8 東京で第1回交渉 1973.12 東京で河合・バフトフ会談 1974.4 東京で本件クレジット交渉（主要条件につき合意） 1974.5 モスクワで内田・バフトフ会談 1974.6 モスクワで河合・バフトフ会談 1974.7 東京で基本契約調印 1974.10 モスクワで借款契約調印、基本契約発効 1975.4 政府間書簡交換</p>
<p>チニメニ石油対日供給プロジェクト 交渉窓口 日本側：石油委員会（今里広記委員長） ソ連側：外国貿易省（N. G. オシポフ次官） 米国側：ガルフ・オイル（?）</p>	<p>① 日本から24億ルーニルのバンクローンを供与し、チユメニ油田の地質探鉱作業の拡大、石油採 掘企業の整備、対日供給石油の輸送、極東における海上積出基地の建設のために必要な設備、機械、 船舶、資材および消費財を対ソ供給する。</p> <p>② ソ連から20年にわたる長期契約により1981年5百万トン、82年10百万トン、83年 15百万トン、84年20百万トン、85年〜2000年各年25百万トンの原油を対日供給する。</p>	<p>1972.2 第5回合同会議においてソ連側より再提案 1972.6 チニメニ油田現地視察 1973.8 第1回合同幹部会議でソ側よりニロトコール・オブ ・インテンション提示 1974.3 第2回合同幹部会議でソ側より左記提案 1974.10〜11 第6回合同会議において日本側より、左記ソ側提案 につき検討困難と回答</p>



プロジェクト名	プロジェクトの骨子	最近の経過
<p><u>ヤクーチャ天然ガス対日供給プロジェクト</u> 交渉窓口 日本側：天然ガス懇談会（安西 浩委員長） ソ連側：外国貿易省（N. G. オシポフ次官） 米国側：エルニソ・ナチニラル・ガス オキシデンタル・ペトロリアム</p> <p>基本契約当事者 日本側：シベリア天然ガス（株）（安西 浩社長） 米国側：米国シベリア天然ガス（株）（ハワード・ボイド社長）、オキシデンタル・エル・エヌ・ジー（株）（アーマンド・ハマー社長） ソ連側：外国貿易省（N. オシポフ次官）</p>	<p>① 日本および米国から約 34 億ドル（うち消費財約 4 億ドル）のバンクローンを折半供与し、ヤクーチャ天然ガス田の開発、パイプライン、液化、海上積出基地の建設などに要する設備、機資材および消費材を対ソ供給する。その第一段階として 1 兆 m<sup>3</sup> の埋蔵量確認のため、2 億ドルのバンクローンを日米折半供与し、追加地質探査作業用設備、資材を対ソ供給する。</p> <p>② ソ連からそれぞれ年間 100 億 m<sup>3</sup> の LNG を 25 年間の長期契約により対日および対米供給する。</p>	<p>1972.10 モスクワで第 1 回交渉 1973. 7 東京で第 2 回交渉 1973. 8 モスクワで探鉱クレジット交渉 1973.12 ヤクーチャ天然ガス田視察 1974. 1 モスクワで安西・オシポフ会談 1974. 4 東京で地質探査に関する日ソ交渉 " " 東京で探鉱クレジット交渉（主要条件につき合意） 1974.5 安西委員長訪米、米国政府、輸銀首脳と会談、日米ソ 3 国協議 1974.9 探鉱 G/A にかんする日米協議 1974.11 パリで日米ソ 3 国会議、探査作業の実施にかんする 3 国間基本契約合意 1974.12 基本契約調印（クレジット諸協定等の発効をまつて発効）</p>
<p><u>サハリン大陸棚石油・ガス探鉱プロジェクト</u> 交渉窓口 日本側：サハリン大陸棚探鉱委員会 （安西浩委員長、今里広記専門委員長） ソ連側：外国貿易省（V. N. スシコフ次官） 米国側：ガルフ・オイル</p> <p>基本契約当事者 日本側：サハリン石油開発協力（株）（今里広記社長） ソ連側：外国貿易省（V. N. スシコフ次官）</p>	<p>① 当初 5 年間の探鉱資金として日本から成功払いクレジット（日本側のリスク負担）1 億ドルをソ連側に供与し、本クレジットを使用して日本側から海洋掘削装置、物理探鉱調査船等の探鉱用設備・機械を賃貸方式により、また、探鉱用消耗資材等を売買方式によりそれぞれ対ソ供給するほか、ソ連側が購入した物理探鉱調査船搭載機器、コンピュータ等の探鉱用恒久設備資金として 2,250 万ドル相当円貨額、およびソ連側現地所要資金の部分的補填のため 3,000 万ドル相当円貨額のクレジットをそれぞれ対ソ供与する。探鉱作業の結果、商業用油・ガス田が発見された場合、開発・生産に着手し、日本から、開発総所要資金の 50% の範囲内で別途合意される金額の円建バンク・ローン条件により開発所要設備、機資材を対ソ供給する。</p> <p>② ソ連側は、日ソ共同して探鉱、開発された油・ガス田から生産される石油・ガスの生産量の 50%（ただし天然ガスの場合は、日本向け供給の採算性を考慮して供給量を決定）を成功払いクレジットの元利償還期間中および償還後 10 年間にわたり対日供給するほか、日本側によるリスクの負担の補償として各油・ガス田の生産開始後 10 年間にわたり日本向け供給量について合意された価格から 8.4% の値引きを行なう。</p>	<p>1972.2 第 5 回合同会議にてソ連側より提案 1972.9 サハリン現地視察 1972.11 東京で第 1 回会議 1974.1~2 モスクワで第 2 回交渉 1974.4 東京で第 3 回交渉 1974.7 モスクワで第 4 回交渉 1974.10 モスクワで第 5 回交渉 ~11 1974.11 モスクワで第 6 回交渉（大半 G/A 条文 ~12 につき合意） 1975.1 （東京で基本契約調印）</p>
<p><u>紙パルプ・プロジェクト</u> 交渉窓口 日本側：紙パルプ委員会（田中文雄委員長） ソ連側：外国貿易省（V. N. スシコフ次官）</p>	<p>① 日本からクレジット条件によりハバロフスクに年産 70.5 万 t の紙パルプ工場およびアムールスクに年産 25 万 t のパルプ工場を建設するため必要設備等を対ソ供給する。</p> <p>② ソ連から上記工場から生産された紙・パルプの一定割合を長期契約により対日供給する。（詳細未定）</p>	<p>1973.10 日ソ首脳会談においてソ側より提案 1974. 3 第 2 回合同幹部会議でソ側より提案 1974.10 モスクワで田中・クズミン会談 1974.10 第 6 回合同会議でソ側より正式提案 ~11 1975.1 ソ側より引合書を正式に受領</p>

## 6. ソ連の外国貿易

(ソ連側資料)

### (1) 輸出入額

	1971年	1972年	1973年	1974年
	億ルーブル	億ルーブル	億ルーブル	億ルーブル
輸出	124	127	158	208
輸入	112	133	155	188
合計	236	260	313	396

### (2) 地域別比率

	1971年	1972年	1973年	1974年
社会主義国	65.4%	64.5%	58.4%	54.0
うちCOMECON	56.2	59.6	54.0	48.9
発展途上国	13.1	13.0	15.0	14.6
資本主義国	21.5	22.6	26.6	31.3

### (3) 国別比率

	1971年	1972年	1973年	1974年
1) 東独	14.6%	14.2%	12.7%	10.9%
2) ポーランド	10.7	10.8	9.6	9.1
3) チェコ	10.2	10.1	8.8	7.6
4) ブルガリア	8.7	9.0	8.2	7.3
5) ハンガリー	7.0	7.2	6.6	5.8
6) 西独	2.8	3.2	3.9	5.6
7) 日本	3.1	3.1	3.2	4.3

8) キューバ	3.8	3.2	3.5	4.1
9) フィンランド	2.4	2.3	2.5	3.9
10) ルーマニア	4.0	4.0	3.6	3.0
11) イタリア	2.1	1.8	2.0	2.9
12) フランス	2.0	2.1	2.3	2.4
13) 英 国	2.6	2.1	2.3	2.2
14) 米 国	0.8	2.1	3.7	1.9

(外務省東欧第一課調べ)

## ウ 意見 発表

### a ソ日経済・文化協力について

#### ハバロフスク地方執行委員会議長 G. E. ポドガエフ

尊敬する知事の皆様。尊敬する来賓各位。尊敬する同志。

私は、定期的に行われる今度のソ日知事会議で演説する機会を与えられたことを大変喜んでおります。

ハバロフスク地方が親善関係を持っている所は日本では兵庫県であります  
が、このほかハバロフスク市と新潟市が姉妹関係を持っております。

私たちはまた、北海道その他日本の多くの県や市との間に大変良い接触を保  
っております。

ここ数年間に私たちは 20 以上の代表団を交換しました。これは地方や都市  
の勤労者代議員ソビエト執行委員会と日本の府県や市の関係の代表団だけの数  
です。

それは、地方自治体、青年、医師、教員、都市問題の専門家、婦人、アマチ  
ュア芸術団、スポーツ代表団等であります。

私たちは、私たちの地方を訪問された日本の代表団の方々に私たちの生活と  
情況をご紹介申しあげ、また私たちの文化と多面的な発展ぶりをご紹介いた  
しております。

このような、間断なく実施される日ソの同業者の代表団の交換は、相互に利  
益をもたらしております。

私たちの地方の市民は、日本からのお客様を大切にもてなし、ソ連の状況、  
労働者、職員、青年の生活ぶりをくわしくご紹介するとともに、平和を愛する  
ソ連の対外政策についてもいろいろ話し合いを持ちます。

日本のお客さまはハバロフスク市の観光を行い、また教育施設、工場、住宅、

病院を訪れ、あるいは新しい住宅団地、スポーツ施設を訪れ、また劇場、公園、博物館を見物されます。

日本のお客さまに示される暖い歓迎は、ますます多くの日本の人々がハバロフスク地方を訪問するのを促進しています。

1975年だけでハバロフスク地方は12,000人の日本の観光客を迎えました。今年の終りまでには、さらに900人位の来訪が予想されております。そのほかに、私たちの地方の海港であるデカストリ、ラザレフ岬、マーゴなどに388隻の日本の商船の乗組員が訪問しております。

また私たちは、兵庫県、新潟市の代表団や北海道のスポーツ代表団それから日本の労働組合の代表団を非常な満足感を以てお迎えいたしました。

私たちの地方は毎年、秋田県の青年グループをお迎えしています（これは小畑勇二郎知事が団長であります）。また、色々の県からの青年友好キャラバンを受け入れています。

青年友好キャラバンの編成については、福井県知事の中川平太夫氏を委員長とする訪ソ実行委員会が行っております。

こういう、ソ連と日本の青年たちの会合は、大へん心の暖い雰囲気の中で行われていることを、喜びを以て申し述べたいと存じます。

会談とか個人的接触、素人演芸の共同出演、スポーツ競技、友情のターすべてこれらは、若い人たちがお互いをよく知り合い理解し合うのを助けています。

ソ連と日本の都市の関係はいま発展しております。とくにハバロフスク市と新潟市との関係はずっと前から発展しており、こういう姉妹都市は定期的に代表団を交換しています。たとえば去年は新潟市にハバロフスクの大きなアマチュア劇団が行きました。それから新潟市の婦人代表団がハバロフスク市を訪れ

まして、ハバロフスクの市民から暖い歓迎を受けました。

また、ハバロフスクの三つの学校が日本のハクサン、ハクシン、アカツカ学校と姉妹校になって、姉妹都市の日を定め、文通したり、絵画、図書などの資料を交換いたしております。

毎年ハバロフスク市では、姉妹都市の日がソ連と日本の国民の祭日として祝われています。

こういう日には、学校、文化会館、ピオニール会館ではいろいろな子供の絵のコンクールが行われ、これには「世界の平和と友好のために」というスローガンが掲げられております。

このような催物はみなソ連の出版物、ラジオ、テレビでよく報道されております。

現在、ハバロフスク市と新潟市との経済関係はたいへん発達しています。

近年、直通航空路ができ、私たちはこれを「友好の橋」と呼んでおります。

このように、ソ日経済、文化の交流が発展していることは、うたがいもなくわれわれ両国の友好と相互理解に貢献しています。

日本の経済界はもちろん、多くの有力な大衆団体がソ連との関係を著しく深めている傾向を指摘するのは喜ばしいことであります。

こういう情況は、近い将来われわれ相互の接触の範囲をさらにいっそう拡げる可能性があることを示しています。

また、われわれ両国民間の関係のいっそうの増大という見地から、私たちは科学・技術の資料の交換についても重要な役割を果たしています。とくに産業・貿易の分野において情報の交換を行っています。

さきほど在日ソ連通商代表がくわしい数字をあげましたが、私から一つだけ申しあげたいことは、ハバロフスク地方もソ日経済・貿易の協力について積極

的な活動を行っていることです。30以上の企業が、一般貿易および沿岸貿易を通じてその製品を日本へ輸出しています。

わが地方と日本との経済関係の発展のもうひとつの重要な現象は、ハバロフスク市で、日本の民間会社によって組織された見本市が行われていることです。

最近数年間だけで、このような見本市が4回行われました。そして一般消費物資、精密機器、医療設備などが出品されました。現在も、木材機械、木材の設備、木材加工工業の見本市の準備がすすめられております。

私が代表する光栄を有するハバロフスク地方についていえば、私は、わが地方に來訪される日本のお客さまが、これまでのように、大へん暖い、親切な歓迎を受けることを保証いたしたいと存じます。

最後に私は、この会議が、われわれ両国および両国民の間の経済・文化関係をいっそう拡大するうえで、新たな貢献となることを希望していることを表明したいと存じます。

ご清聴ありがとうございました。

## **b 山形県知事 板垣清一郎**

### 日ソ貿易・経済の協力について

本日、日ソ知事会議に出席されております皆さんに、山形県のソビエト社会主義共和国連邦との貿易に関する状況についてお話しをする機会を与えられた事を深く感謝いたします。

現在、山形県がソビエト社会主義共和国連邦との間に行われている貿易については、昭和49年では輸出額5億2,200万円、品目では二酸化マンガ、石英ガラスの工業用資材であります。輸入については、本県の酒田港通関で木材92億5,000万円等約百億円で、木材が殆んどであります。

過去 10 年の輸出では、昭和 40 年では 1 億 8,000 万円であり、この 10 年間で金額では 3 倍の伸張が認められます。

本県の対ソ連邦貿易の進展は、われわれ山形県民の強く希望するところであり、日ソ親善の強化とあわせて、経済交流の拡大の実現に大きな期待が寄せられています。

この間にあつて、日本海をあいだに、相互に接する地域の経済交流の拡大を図るため、沿岸貿易の振興が、両国県・市民の協力のもとに進められ、見本市の開催、取引額の増加など、また、本年 10 月モスクワ市において開催された日本消費物資見本市に、山形県では繊維製品を出品し、そのあるものは商談の対象となるなど、その成果にみるべきものがあります。

しかし、現段階に満足することなく、両国のきずなを一段と強く、太くするべきであります。

ここに、本日この会議に出席されている、ソビエト社会主義共和国連邦の知事閣下をお願いいたしたいことがあります。

わが山形県は、隣国の友人達に各種の良質な物資を提供するに足る設備と能力を持っていると信じております。これは、県内における全国的な規模で経営されている大型の企業のみならず、比較的小型の規模によって運営されている企業についても同様であります。

これらの企業は、その地域での経済活動を支え、郷土の産業の基幹を形成しているものであります。

もし、これらの本県産業が貴国との貿易により大きな地歩を占め、また貴国における幾多の開発計画の実現に寄与することができるとすれば、両国の貿易拡大の大きな拠りどころとなるのみならず、両国民の親善にもたらす効果も絶大なものがあると考えられます。



そのためには、沿岸貿易とともに、協同組合貿易、あるいは貿易公団による貿易  
活  
動の拡大強化がのぞまれます。

これらの実現には、中川福井県知事も申されましたが、なお多くの問題が介  
在しております。

しかし、真に両国民相互の理解と両国の経済相互協力を押し進めて行くため  
には、地方産業における、貴国との貿易拡大が必要なことは、列席の各位にお  
かれても御同意願えるものと思います。

本県の場合に、繊維部門を例にとると、米沢市では織布産業、山形市を中心  
とした地域ではニット産業があります。それぞれ、年産 200 億円を超えるも  
のでありますが、地方産業として、またその地域の基幹産業の一つとして、市  
民の経済活動に大きな地位を占めております。

また、すでに貴国との貿易実績がありますが、酒田市の二酸化マンガンを主体  
とする工業用資材、その他山形市の旋盤、ミシン、メリヤス編機械等、これら  
は一例に過ぎませんが、各般にわたる優良な物資を生産しています。

私は、今後の日ソ貿易の拡大を図るうえで十分に地方産業に着目され、取引  
の拡大を図られんことをお願いしてやみません。

今後の両国間の一層の経済・文化交流の促進と、両国民の友好の確立、それ  
から、本日ここに出席されました各位の御健康と御活躍をお祈りして、終りと  
いたします。

## **G サハリン州執行委員会議長 A. V. シェフツォフ**

シェフツォフ・サハリン州知事あいさつ

尊敬する皆様。尊敬する会議参加者の皆様。

本日私たちは、ソ連側および日本側をそれぞれ代表して大変意義のある問題

を討議いたしました。

私自身も報告を準備いたしましたけれども、時間を節約するために、私の報告を会議録に入れていただくようお願いすることといたしまして、私はここでもう1回皆様への歓迎の気持を表明させていただいて私のごあいさつを終わります。

(以下は、シェフツォフ・サハリン州知事から提出された報告である。)

北海道とサハリン州の友好関係の発展について

尊敬する知事のみなさん！

尊敬する来賓のみなさん！

同志のみなさん！

ソ連国民は大10月社会主義革命58回記念日を盛大に、喜んで祝いました。5か年計画の遂行、経済建設と文化建設におけるソ連の勤労者の成果は、社会主義世界体制の強化、国際緊張の緩和、ソ連共産党第24回大会で作成された平和綱領の順調な実現の事業での巨大な功績となっています。

地球上の政治気候の全般的温暖化は、わが国と日本の間の、サハリンと北海道との間の善隣関係の改善に影響を与えました。これらの関係は1967年からもっとも活発に発展しはじめました。

代表団の相互交換は伝統的な事業となりました。ここ数年間に北海道の多数の都市の代表団はわたしたちの客人となりました。この代表団はサハリンの諸都市を訪れ、工業企業、農業、保健、教育、文化機関、教育機関などの組織と、年金保障システムと、ソ連共産党第24回大会決定の遂行分野の勤労者の成果を視察しました。

代表団の団長たち—旭川市長、北見市長、稚内市長、釧路市長—は、ソ

ニエト人の労働、生活、文化条件を視察する機会を与えてくれたことに対し、ソ連の機関に感謝の意を述べました。代表団は歓待に感謝し、今後も善隣関係を強化する希望を表明しました。

わたしたちは、現在、ユジノ・サハリンスク市と旭川市、ニロナイスク市と北見市、ホルムスク市と釧路市の強固な友好関係が樹立されたものと考えています。

もうすでに10年も、日本人の大きなグループが肉親の墓地を訪れるために、毎年わが州を訪れています。これらのグループは国家公務員、商社、マスコミの代表者、労働者、主婦が加わっています。

今年、日本の市民グループの一つに日本社会党北海道本部の責任者ニカト・シゲオ氏が団長となりました。帰国直前、かれはユジノ・サハリンスクのジャーナリストたちにつぎのように言明しました。

「わたしたちはここで3箇所—ユジノ・サハリンスク、ホルムスク、ネニリスクを訪れることを考えていましたが、さらにチェーホフも訪れました。わたしは党州委員会、州執行委員会、さらに市機関に対し、わたしたちにこのような機会を与えてくださったことに感謝したいと思います。日本人墓地が、われわれ日本人が見守っていないにもかかわらず、良好な状態に保たれていることに感謝したいと思います。」

日本人たちは工業企業や商業企業、新しい住宅が建設されている建築現場、学校、幼稚園、病院、スタジアムやサナトリウム、文化と休息公園を訪れています。日本人たちは労働者や勤務員、都市・州執行委員会の指導者たちと会っています。経済、文化、国民教育、医療サービスなど、すべてにこの人たちは関心をもっています。日本人たちは、ソ連政権の間に州の諸都市で生じた変化に感嘆しております。

日本国民、特に北海道とわが州の勤労者の友好関係の発展と強化、相互理解、信頼と文化協力に関する著しい仕事を、サハリン州労働組合委員会がすすめております。ここ6年の間に同委員会の招きにより北海道の11の労働組合代表団がサハリン州を訪問しました。この代表団には、労働組合員、労働組合活動家、医師、教師、林業・木材加工工業従事者、炭坑労働者、鉄道員などが加わっています。たとえば、医療従事者代表団は、工業企業数か所、医療施設2か所、漁民・船員用サナトリウム・予防病院、幼稚園、ピオニール・キャンプを訪れ、家庭救急措置対策の基本を詳しく知りました。

今度はこちらの番として、1970年から1975年まで、労働組合州委員会、石炭、林業、木材加工工業従事者、医療従事者、教師、鉄道員の州労働組合委員会代表団七つが北海道を訪れました。

ソ連の成果を日本国民に広く紹介する目的で、労働組合州委員会とソ日協会サハリン支部は北海道へ、写真展、サハリンと千島列島の勤労者の仕事、日常生活、休息についての記録映画フィルム・アマチュア芸能サークル集団のコンサートテープを系統的に送っています。

サハリン州の諸港には毎年約120隻の日本の輸送船が入港しています。船員のために、わたしたちのところでは国際友情クラブ、友情室が開設されています。ここで、日本の船員たちは水泳の後に休息したり、新聞や雑誌を読んだり、講演会を訪れたり、映画を見たり、スポーツ競技に参加したりできます。港の労働組合活動家たちは、お客たちのためにハイキングや、スポーツ競技やその他の行事を組織しています。

サハリン州の文化施設従業員たちは、北海道民との友好関係の拡大と強化に少なからず貢献しています。文化会館と文化宮殿、映画館、図書館では、夕、講演会、座談会が定期的にもたれ、日本についての映画が上映され、写真展示

『日本はわたしたちの近い隣国』、日本の作家の展示会が展示されています。サハリン州民たちは、旭川市と釧路市に、ソ連邦結成 50 周年写真展と、ウラジーミル・イリイチ・レーニンについての児童図書セットを送りました。

ユジノ・サハリンスク、ホルムスク、ネニリスクの学校では北海道の児童画展が組織されました。サハリンの多数の学童たちは日本の学童たちと文通をしています。

すでに 10 年以上も、毎週、サハリン州テレビ・ラジオ委員会日本向け放送編集局が製作する 30 分間放送が続けられています。この放送の主な任務は、日本人聴取者にソ連の生活形態、サハリン州民の労働と日常生活の条件、州の経済と文化を紹介することです。

日本向け放送には、多数の州機関、官庁の指導者が参加しています。かれらは、州の企業や国民のたゆまない成長、勤労者の物質的福祉と文化水準の向上について話します。

そしてこれらはまた、もちろん、両国民間の相互理解の促進、善隣関係の強化をある程度促進しています。

スポーツ交流について若干触れたいと買います。サハリン州と北海道のスポーツ選手たちの第 1 回の同志的大会は 1973 年札幌で行われました。あくる年、日本のスポーツ選手たちはユジノ・サハリンスクにやって来ました。第 3 回大会は、本年小樽市で行われました。1976 年 3 月に、わたしたちは再度、北海道のスポーツ選手たちを客に迎えます。

おわりに、わたしはわたしたちの貿易関係について、簡単に触れてみたいと思います。サハリン州民は、年々、石炭、石油、魚と魚製品、セルローズ製品、挽材と丸太材の日本納入に関する契約を超過遂行しております。この期間にわたしたちが納入する品質に対して日本商社からなにひとつ苦情もクレームも受け取りませんでした。

沿岸貿易は、ますます大きな規模をとるにいたっております。1971年から、わたしたちは北海道の商社に針葉樹製板用材と切断挽材 10 万立方メートル以上、魚梱包用木箱セット約 430 立方メートル、塩漬わらび 170 トンを発送しました。

見返りに、北海道の商社は沿岸貿易の条件で、わたしたちに日用品を納入しています。

わたしたちは今後も、互恵の貿易関係、実務交流の発展のために、両国間の平和と友好のために、サハリン州と北海道間の友好関係の全面的拡大と強化のために、可能なことはすべて行うであります。

## 9 閉会あいさつ

### (1) 日本知事代表閉会あいさつ

**全国知事会副会長 長野県知事 西 沢 権一郎**

日ソ知事会議の閉会にあたりまして、日本の全国都道府県知事を代表いたし、ご挨拶を申し上げます。

本日の日ソ知事会議は、これをもって無事終了いたしました。皆様長時間にわたり熱心にご討議いただき、大変お疲れのことと存じます。

ご出席の日ソ両国知事各位におかれては、当面する重要問題について終始熱心にご検討され、問題点の解明にご尽力下されましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

本日討議されました二つの議題はいずれも日ソ両国にとり切実かつ最も関心の深い問題でありまして、これについて両国の知事各位から貴重な報告と意見の交換が活発に行われました。このことは、今後これらの分野における地方行

政の推進に当り、大いに役立つことは勿論であります。日ソ両国の相互理解と友好親善においても極めて有意義であることと確信いたします。この会議がかくの如く、実り多い成果を挙げ得ましたことは、ひとえにご出席の両国知事を始め関係各位のご努力とご協力によるものでありまして、心から謝意を表する次第であります。

今回は、日本側の知事一行が貴国を訪問いたすことになるかと存じますが、皆様方と再びお会いできる日を今から期待いたしております。

最後に、日ソ知事会議の一層の発展と、ご出席の皆様のご多幸、ご健康をお祈りして閉会のご挨拶といたします。

ありがとうございました。

## **(2) ソ連知事代表 閉会あいさつ**

### **ロシア連邦共和国副首相 V. A. デムチェンコ**

尊敬する知事の皆様、尊敬する賓客の皆様、同志たちの皆さま。

私たちの第7回目の知事会議も終りに近づいてきました。これまでの会議と同じように、今度の会議が大へん興味深くかつ有益なものであったことは疑いありません。

私たちは、本日二つの問題に触れて意見の交換をいたしました。両国の代表団がこれらの問題について大体あるいは完全に意見の一致を見たことに大きな満足を感じております。

私たちが互いに代表団を交換し合い、ソ連国民と日本国民とが色々な面での生活の状況を紹介し合うことは非常に有益なことを強調したいと思います。

私は今度、日本を訪問した際、皆様に「百聞は一見にしかず」と申しましたところ、日本側の人たちがこれに異議をとらえて、これは日本のことわざであ

るとおっしゃいました。

私たちは、こういうことで論議したいというわけではなく、こういう、昔からの国民の知恵を歓迎するとともに、こういう面でこれから大いに努力しなければならないと私は考えております。

本日は、ここで私たち両国間の経済関係について色々とお話がありましたが、こういう関係も現在効果的に発展しつつあります。そしてこういう関係の今後の見通しは大へん明るいと思っております。

双方の側でお互いに希望があるのですから、こういう経済の関係は今後いっそう発展することと私は思いますし、またそれは両国国民の利益になることと存じます。

この機会をかりまして、私たちの代表団は今一度、日本の全国知事会そして会長の木村さんにお礼を申しあげ、また暖い歓迎をいただいたことと、こういう立派な会議を組織してくださったことに対し、心からの感謝の意を表したいと思っております。

一方私たちの側といたしましては、次の第8回日ソ知事会議を1977年にモスクワで行いたいと考えており、皆様に対しご招待申しあげる次第です。その節は、日本の代表団に対し最も暖いご歓迎を申しあげたいと思っておりますので、どうか皆様のご支持をいただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。



## 付録1 ソ連知事団滞在日程

### ソ連知事団滞在日程（要約）

月 日（曜）	訪問都県	摘 要	宿舎
昭50年（1975年） 11月21日（金）	東京都・北海道	9：20 羽田空港着 （SU579） 13：40 同 発 （ANA63） 15：05 千歳空港着 北海道視察	札幌＝リン スホテル
11月22日（土）	北海道	北海道視察	札幌＝リン スホテル
11月23日（日）	北海道	北海道視察	函館国際 ホテル
11月24日（月）	北海道・東京都	19：27 千歳空港発 （ANA68） 21：00 羽田空港着	帝国ホテル
11月25日（火）	東京都	要人訪問及び都内視察	帝国ホテル
11月26日（水）	東京都	午前 要人訪問 午後 日ソ知事会議	帝国ホテル
11月27日（木）	東京都・福井県	8：28 羽田空港発 （ANA751） 9：28 小松空港着 福井県内視察	開花亭 （芦原町）
11月28日（金）	福井県・京都府	夕刻バスにて敦賀から京 都へ	京都グラン ドホテル
11月29日（土）	京都府・東京都	午前 京都観光 午後 バスにて京都から 東京へ	帝国ホテル
11月30日（日）	東京都	午前・午後 休息、自由 行動	帝国ホテル
12月1日（月）	東京都	午前 要人訪問 17：30 羽田空港発 （SU582） 帰 国	

注 1. ソ連知事団の日本滞在日程のうち、北海道訪問（11月21日～24日）は北海道の招待によるものであり、その他（東京、福井県、京都）の訪問が全国知事会の招待によるものである。

注 2. ソ連知事団の福井県及び京都訪問における随行者は次のとおり。

在日ソ連大使館参事官　　V. V. デニソフ

全国知事会渉外部長　　仁科久夫

同　　参　　事　　柳田躬嗣

同　　主　　事　　山口勉

通　　　　　　　　　堀江豊

通　　　　　　　　　山崎利臣

## ソ連知事団滞在日程（詳細）

11月21日（金）

（東京都・北海道）

発着時刻	発着地	交通機関	行事	宿舎
9:20	東京国際空港着	エアロフロート 579便	空港特別待合室 （PQホーム）にて 歓迎式 （松島事務総長、トロヤ ノフスキー大使出席） エアターミナル・ホテル 内「グリル・アビオン」 にて昼食 （11:10～12:30） 全日空VIP室にて 休憩 （12:40～13:23）	
13:40	同上発	全日空 63便		
15:05	千歳空港着			
15:35	同上発	バス		
16:50	札幌ニリンホテル着		ロシア連邦共和国閣 僚会議代表団歓迎実 行委員会（委員長・ 堂垣内知事）主催歓 迎レセプション （札幌ニリンホテル） 18:00～20:00	札幌ニリン ホテル

11月22日(土)

(北海道)

発着時刻	発着地	交通機関	行事	宿舎
9:00 9:10	札幌ニルス・ホテル発 北海道庁着	バス	堂垣内知事表敬訪問 (9:10~9:50) 記者会見 (9:50~10:10)	
10:10 10:20	同上発 北海道議会議場着	バス	副議長改発治幸氏と 会見	
10:40 10:50	同上発 札幌市役所着	バス	札幌市議会議長 松宮利市氏と会見	
11:10 11:20	同上発 雪印乳業(株)札幌工場着	バス	雪印乳業札幌工場 参観	
12:00 12:10	同上発 札幌パーク・ホテル着	バス	札幌市主催昼食会 (札幌パーク・ホテル) (12:10~13:20)	
13:20 14:00	同上発 北海道開拓記念館着	バス	北海道開拓記念館参観	
15:00 16:00	同上発 北海道日ソ友好文化 会館建設地着	バス	(途中、真駒内アイス・ アリーナを見学) 北海道日ソ友好文化 会館の建設状況見学	
16:30 16:45	同上発 在札幌ソ連総領事館着	バス	マーミン総領事と会見	
17:00 17:15	同上発 札幌ニルス・ホテル着	バス	堂垣内北海道知事主 催晩さん会 (札幌ニルス・ホテル) (18:00~20:00)	札幌ニル ス・ホテル

11月23日(日) (北海道)

発着時刻	発着地	交通機関	行事	宿舎
10:00	札幌プリンス・ホテル発	バス	(途中、大倉山シャ ツエを見学)	
11:00	小樽市役所着		小樽市長志村和雄氏 を表敬訪問	
11:20	同上発	バス		
11:30	北海ホテル着		小樽市長主催昼食会 (北海ホテル) (11:30~13:00)	
13:00	同上発	バス	ドライブイン・カナ ヤ(長万部)で休憩	
18:00	函館国際ホテル着		函館市長矢野康氏を 表敬訪問 函館市長主催晩さん 会 (函館国際ホテル) (19:00~21:00)	函館国際 ホテル

11月24日(期) (北海道・東京都)

発着時刻	発着地	交通機関	行事	宿舎
9:00	函館国際ホテル発	バス	函館市内視察	
9:40	函館ドック(株)工場着		造船所見学	
10:10	同上発	バス		
10:40	函館空港着		函館空港が使用不能により欠航となったため、千歳に向う。	
11:30	同上発	バス	ドライブイン・カナヤ(長万部)で休憩	
19:00	千歳空港着			
19:27	同上発	全日空 68便		
21:00	東京国際空港着		エアターミナル・ホテル内「グリルアビオン」にて夕食	
22:10	同上発	バス		
23:00	帝国ホテル着			帝国ホテル

11月25日(火) (東京都)

発着時刻	発着地	交通機関	行事	宿舎
9:27 9:37	帝国ホテル発 東京都庁着	バス	副知事田坂益夫氏と会見 (2階特別応接室)	
10:00 10:50	同上発 経団連会館着	バス	[会見者] 経団連名誉会長 日ソ経済委員会代表委員 植村甲午郎氏 東京瓦斯(株)会長、日ソ経 済委員会天然ガス懇談会 委員長 安西浩氏 王子製紙(株)社長、日ソ経 済委員会紙パルプ委員会 委員長 田中文雄氏 経団連専務理事 古藤利久三氏 経団連国際経済部次長 桜井泰氏ほか (11階天平の間)	
12:02 12:19	同上発 ホテル・オークラ着	バス	田坂東京都副知事主催昼 食会 (末広の間)	
13:48 14:30	同上 発 大日本印刷(株)着	バス	副社長北島義俊氏 らと会見、工場参観	
15:15 15:32	同上発 通商産業省着	バス	[会見者] 通商産業大臣 河本敏夫氏 通商政策局長 橋本利一氏 南アジア東欧課長 尾身幸次氏ほか (大臣室 15:33~46)	
15:48 16:14	同上発 講道館着	バス	柔道練習風景参観	

(次ページにつづく)

(前ページよりつづく)

発着時刻	発着地	交通機関	行事	宿舎
16:30	講道館発	バス		
16:50	帝国ホテル着			
18:50	同上発	バス		
19:00	ソ連大使館着		トロヤノフスキーソ連大使主催レセプション (19:00~20:30)	
21:00	同上発	バス		
21:10	帝国ホテル着			帝国ホテル



11月26日(水) (東京都)

発着時刻	発着地	交通機関	行 事	宿 舎
9:36 9:41	帝国ホテル発 自治省着	バス	[会見者] 自治大臣 福田 一 政務次官 佐藤 恵 事務次官 鎌田要人 官房長 山本 悟 官房総務課長 塩田 章 (大臣室9:44~10:00)	
10:12 10:22	同上発 帝国ホテル着	バス	少 憩	
11:26 11:35	同上発 外務省着	バス	[会見者] 外務事務次官 佐藤正二 氏 東欧一課首席事務官 佐藤 俊一氏 (通訳 大江事務官) ( 401号室 ) ( 11:45~11:57 )	
12:00 12:07	同上発 赤ン坂ニリンホテル着	バス	自治大臣主催昼食会 〔出席者〕 福田自治大臣、佐藤政務 次官、鎌田事務次官、林 行政局長、松浦財政局長、 佐々木消防庁長官、森岡 消防庁次長、山本官房長、 木村知事会会長、松島同 事務総長 (ニール・ルーム)	
13:26 13:30	同上発 都道府県会館着	バス	第7回日ソ知事会議 ( 211号室 ) ( 13:35~16:55 )	

(次ページにつづく)

(前ページよりつづく)

発着時刻	発着地	交通機関	行事	宿舎
17:04 17:18	都道府県会館発 帝国ホテル着	バス	小憩ののち 全国知事会会長主催晩さん会 〔主な出席者〕 秋田、山形、福島、長野、 石川、愛知、福井、広島、 山口、香川、佐賀、大分、 各知事、北海道中村副知事、 都外務長、トロヤノフスキー大使、佐藤自治政務次官、 鎌田自治事務次官、羽田野外務政務次官、 松島事務総長等 ( 帝国ホテル牡丹の間 ) 19:00~20:30	帝国ホテル

11月27日(木) (東京都・福井県)

発着時刻	発着地	交通機関	行 事	宿 舎
7:05	帝国ホテル発	バ ス		
7:45	東京国際空港着		全日空VIP室にて小憩	
8:28	同 上 発	全日空 751便	中西石川県知事(全国知事会副会長)が 小松空港まで同行	
9:28	小松空港着			
9:48	同 上 発	バ ス		
10:48	福井県庁着		福井県知事 中川平太夫氏を表敬訪問	
11:35	同 上 発	バ ス		
11:43	スエヒロ着		昼食(中川知事との会食)	
12:57	同 上 発	バ ス		
13:09	酒伊繊維(福井工場)着		社長 酒井秀雄氏らの案内で繊維工場を参観	
13:54	同 上 発	バ ス		
14:11	福井光器着		木村社長らの案内でメガネわく工場を参観	
14:58	同 上 発	バ ス		
15:28	セーレン(新田工場)着		黒川社長らの案内で織物工場を参観	
16:13	同 上 発	バ ス		
16:40	開花亭(芦原温泉)着		中川知事主催晩さん会 (開 花 亭) 19:00~21:30	開花亭 (芦原町)

11月28(金) (福井県・京都府)

発着時刻	発着地	交通機関	行事	宿舎
8:25	開花亭発	バス	途中、景勝地「呼鳥門」で小憩	
10:00	陶芸館着		渡部さとし館長の案内で館内参観	
10:30	同上発	バス		
11:37	敦賀市役所着		矢部敦賀市長を表敬訪問	
12:10	同上発	バス		
12:22	観光ホテル着		昼食(中川知事らとの会食)	
13:26	同上発	バス		
13:28	敦賀港着		敦賀港港湾施設見学 (原田敦賀市港湾貿易課長の説明)	
13:47	同上発	バス		
13:52	気比神宮着		気比神宮表敬 (桑原宮司が案内)	
14:07	同上発	バス		
14:15	東洋紡績(株)着		川村工場長の案内で紡績工場参観	
15:18	同上発	バス		
18:40	京都グランドホテル着		11階「トッニ・オニ・キョート」(回転レストラン)にて夕食	京都グランド・ホテル

11月29日(土) (京都府・東京都)

発着時刻	発着地	交通機関	行 事	宿 舎
9:37	京都グランドホテル 発	バ ス	午前中、京都府庁の 手配による京都市内 観光	
10:02	金閣寺着		河原崎氏の案内で金 閣寺参観	
10:30	同 上 発	バ ス		
10:53	平安神宮着		大河庶務課長の案内 で平安神宮参観	
11:20	同 上 発	バ ス		
11:35	清水寺着		松本氏の案内で清水 寺参観	
12:20	同 上 発			
12:31	京都グランドホテル 着		京都グランドホテル 「グリル佳」にて昼 食	
13:40	同 上 発	バ ス	名神、東名高速道路 （ 経由 ） 15:40～15:53 サービスエリアで休憩	
16:45	ホテル寸座ニラージ 着（奥浜名湖）		ホテル寸座ニラージ 1階「レストラン・ ノルデン」にて夕食	
18:37	同 上 発	バ ス	（東名高速道路経由） 20:35～20:43 足柄サービスエリア で休憩	
20:00	帝国ホテル着			帝国ホテル

11月30日（日）（東京都）

発着時刻	発着地	交通機関	行事	宿舎
			午前、午後 休息および自由行動 （買物、荷造り等）  日ソ共同声明調印式 および松島全国知事 会事務総長主催歓送 晩さん会 〔出席者〕 松島事務総長ほか 知事会各部長、ツェ ホーニア公使、デニ ソフ参事官ほか大使 館員2名 （ 帝国ホテル福の間 ） （ 19：00～20：30 ）	帝国ホテル

12月 1日 (月) (東京都)

発着時刻	発着地	交通機関	行事	宿舎
10:20 10:28	帝国ホテル発 経済企画庁着	バス	サンケイ新聞とのインタビュー「日ソ経済協力とシリア開発」五十畑経済部長司会により デムチェンコ、ニボバロフ、ポドガエフ、フィラトフ、シェフツォフ、スミルノフ各氏出席 トロヤノフスキー大使、スパンダリアン通商代表も同席 ( 帝国ホテル桂の間 ) 9:00~10:00	
10:48 10:55	同上発 衆議院着	バス	福田赴夫副総理・経済企画庁長官と会見 ( 大臣室 ) 10:30~10:45	
11:23 11:33	同上発 帝国ホテル着	バス	前尾繁三郎衆議院議長と会見 ( 議長応接室 ) 11:00~11:20	
15:30 16:05	同上発 東京国際空港着	バス	帝国ホテル「グリル・ルーム」にて昼食	
17:30	同上発	エアロフロー ト582便	空港特別待合室 「Aルーム」にて歓送式 松島総長、トロヤノフスキー大使等が歓送 帰国	

## 第7回日ソ知事会議に関する共同声明

1975年11月26日、東京で、第7回日ソ知事会議が開催された。

ソ連側からは、この会議に次の者が出席した。

ロシア連邦共和国閣僚会議副議長	デムチェンコ, V・A (団長)
バシュキール自治共和国閣僚会議議長	アクナザーロフ, Z・S
ブリヤート自治共和国閣僚会議議長	ピポバーロフ, N・B
ハバロフスク地方執行委員会議長	ポトガーエフ, G・E
スタブロポリ地方執行委員会議長	タラノフ, I・T
ノボシビルスク州執行委員会議長	フィラトフ, V・A
クイビシエフ州執行委員会議長	コンノフ, V・F
ヤロスラブリ州執行委員会議長	トロポフ, V・F
サハリン州執行委員会議長	シェフツオフ, A・V
ソ 日 協 会 理 事	スミルノフ, Y・I

(随員)

全国知事会からは、この会議に次の者が出席した。

北海道副知事	中 村 啓 一
秋 田 県 知 事	小 畑 勇 二 郎
手 県 副 知 事	谷 口 昇



山形県知事	板垣清一郎
福島県知事	木村守江（全国知事会会長）
新潟県副知事	関昭一
千葉県知事	川上紀一
長野県知事	西沢権一郎（全国知事会副会長）
富山県知事	中田幸吉
石川県知事	中西陽一（全国知事会副会長）
愛知県知事	仲谷義明
福井県知事	中川平太夫
広島県知事	宮澤弘
山口県知事	橋本正之（全国知事会副会長）
香川県知事	前川忠夫
愛媛県知事	白石春樹
佐賀県知事	池田直
大分県知事	立木勝
全国知事会	松島五郎
事務総長	

同会議開催中に次の問題、「日ソ親善関係の発展について」および「日ソ貿易・経済の協力について」が討議された。

双方は、国際緊張の緩和と全般的平和の強化と諸国民の安全が

現在進行していることを歓迎する。

双方は、世界の緊張緩和と国際平和を強化するための諸国民およびすべての国々の政府のいっそうの努力が必要であることを表明した。

意見交換の過程で、双方は、近年、日ソ関係が本格的な発展をしていることを指摘するとともに、両国の協力がさまざまな分野においていっそう強化し、拡大していることに満足の意を表明したが、これらのことは、両国民の相互理解と友好関係の強化を促進している。

双方は、日ソ関係が、世界における平和と安全の強化の重要な要因であることを強調し、社会体制の異なる国家の平和共存の原則に基づいて、友好の強化と互惠の協力のいっそうの改善と発展を今後とも促進する意向を表明した。

双方は、日ソ間の友好と協力の今後の発展における両国の地方行政機関の重要な役割を認識しながら、双方の努力の結果、近年、ソ連邦の自治共和国、地方、州と日本の都道府県との間の経済、文化交流がいちじるしく拡大していることに満足をもち、第7回日ソ知事会議もこの目的に貢献するであろうことを指摘した。

同会議出席者は、この樹立された関係が有益であることを考慮しつつ、今後におけるこのような会議の実施、個人的接触の実現、

さまざまの代表団、観光団の交換の方法によって、これらの関係の発展を全面的に促進することが不可欠であることを認めた。

会議出席者は、日ソ関係の今後の発展と強化が両国の国民の利益にかない、アジアと全世界の平和の利益にかなうものであることについて堅い信念を表明した。

1975年 11月 26日

ソ連知事団団長

日本全国知事会

ロシア連邦共和国副首相

会長 木村守江

デムチェンコ, V・A

「ロシア語」

「ロシア語」

「ロシア語」

「ロシア語」

付録 3

ソ連知事団メンバーの略歴

1 デムチェンコ（ウラジーミル・アキモビッチ）

MR. DEMCHENKO VLADIMIR AKIMOVICH

ロシア連邦共和国閣僚会議副議長（副首相）。

（ソ連知事団団長）。

1920年4月21日生れ。

1944年モスクワ高等技術学校卒。

1957～59年 モスクワ州ストゥーニノ市 党第一書記

1960～63年 モスクワ州 党書記

1964～71年 モスクワ州 党第二書記

1966年より ソ連共産党中央委員候補

1966年より ソ連最高会議代議員

1971年より ロシア共和国副首相

2 アクナザロフ（ゼケリア・シャラフトディノビッチ）

MR. AKNAZAROV ZEKERIJA SHARAFUTDINOVICH

バシユキール自治共和国閣僚会議議長（首相）。

1924年8月22日生れ。

バシユキール教育大学卒。

教員として働いた後、社会・政治活動にたずさわる。

ソ連最高会議民族会議代議員。

民族会議運輸通信委員会委員。



3 ピ = バロフ (ニコライ・ブイノビッチ)

MR. PIVOVAROV NIKOLAI BUINOVICH

ブリヤート自治共和国閣僚会議議長 (首相)。

1912年5月9日生れ。

レニングラード工科大学卒。

技術者・設計者として働く。

主任技術者、ブリヤート自治共和国地方産業大臣を経て、

ソ連最高会議民族会議代議員。

民族会議運輸通信委員会委員。

4 ポドガエフ (グリゴリー・エフィモビッチ)

MR. PODGAEV GRIGORII EFIMOVICH

ハバロフスク地方執行委員会議長 (知事)。

1920年7月9日生れ。

トムスク工業大学卒。

いろいろな工業企業で働く。

第2次世界大戦参加。その後、社会・政治活動にたずさわる。

ソ連最高会議民族会議代議員。

民族会議立法提案委員会委員。

ソ連議員グループ委員会委員。

5 タラノフ (イワン・チホノビッチ)

MR. TARANOV IVAN TIKHONOVICH

スタブロポリ地方執行委員会議長 (知事)。

1927年9月16日生れ。 高等教育を受ける。

経済学準博士。

農業の各部門で、さまざまの職務で勤務する。

その後、社会・政治活動にたずさわる。

ソ連最高会議民族会議代議員。

民族会議商業・福祉・地方経済委員会委員。

6 フィラトフ（ビクトル・アンドレービッチ）

MR. FILATOV VIKTOR ANDREEVICH

ノボシビルスク州執行委員会議長（知事）。

1917年1月24日生れ。 高等教育を受ける。

モスクワ機械工場に働き、後、責任ある社会政治活動に進出。

ロシア連邦共和国最高会議代議員。

ロシア連邦共和国最高会議幹部会委員。

7 コンノフ（ベニアミン・フェドロビッチ）

MR. KONNOV VENIAMIN FEDOROVICH

クイニシェフ州執行委員会議長（知事）。

1921年9月27日生れ。 高等教育を受ける。

各州の機械製造工場で働く。のち、社会・政治活動に進出。

ソ連最高会議連邦会議代議員。

連邦会議建設及び建設資材産業委員会委員。

8 トロニフ（ワシリー・フェドロビッチ）

**MR. TOROPOV VACILII FEDOROVICH**

ヤロスラブリ州執行委員会議長（知事）。

1918年8月24日生れ。

農業大学卒。

農業部門で働く。

ロシア連邦共和国最高会議代議員。

ロシア連邦共和国最高会議立法提案委員会委員長。

9 シェフツォフ（アレクセイ・ワシリエビッチ）

**MR. SHEVTSOV ALEKSEI VASILJEVICH**

サハリン州執行委員会議長（知事）。

1916年8月14日生れ。

モスクワ漁業大学卒。

さまざまな建設・組立て機関で働く。

ロシア連邦共和国最高会議代議員。

10 スミルノフ（ユーリー・イワノビッチ）

**MR. SMIRNOV YURII IVANOVICH**

ソ日協会理事。

1939年5月14日生れ。

付録 4

来 日 ソ 連 知 事 団 の 地 方 ・ 州

行 政 区 域 名	面 積 (千平方キロ)	人 口 (千人) 1974 年 1 月現在	首 都
1 ロシア連邦共和国	17,075.4	132,913	モスクワ
2 バシユキール自治共和国	143.6	3,825	ウファ
3 =リヤート自治共和国	351.3	841	ウラン・ウデ
4 ハバロフスク地方	824.6	1,451	ハバロフスク
5 スタブロポリ地方	80.6	2,400	スタ=ロポリ
6 ノボシビルスク州	178.2	2,531	ノボシビルスク
7 クイビシェフ州	53.6	2,956	クイビシェフ
8 ヤロスラ=リ州	36.4	1,400	ヤロスラブリ
9 サハリン州	87.1	647	ユジノ・サハリンスク

(参考・北海道の面積は 78.5 千平方キロ)

写真あり